

にわ が ふち
庭ヶ渕遺跡Ⅱ

—市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書—

2024.2

香南市教育委員会

に わ が ふ ち

庭ヶ渕遺跡 II

—市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書—

2024. 2

香南市教育委員会

序

本書は、香南市香我美町上分における市道整備事業に伴い、香南市教育委員会が平成23年度に発掘調査を実施した庭ヶ測遺跡の発掘調査報告書です。

香南市の中央を流れる香宗川では、中流域から下流域に至る範囲において各時代の人々の生活の拠点となっていました。香宗川及びその支流である山南川の流域においても、弥生時代の集落跡が発見された拝原遺跡・稗地遺跡や、古代・中世に有力者が居を構えたと考えられる十万遺跡などが存在します。

これらの遺跡よりやや上流において、縄文時代晩期の土器がまとまって出土する庭ヶ測遺跡が発見されました。縄文時代から弥生時代へと移る時期に小規模な集落があったことが想定されますが、この時期の遺跡は県内でも例が少なく、当時の集落分布や人・モノの交流を考えるうえで貴重な遺跡といえます。

本書では、この時期に建てられたと考えられる竪穴建物跡を検出した調査地区に焦点を当てつつ、庭ヶ測遺跡の出土遺物を俯瞰することにより、香南市域でかつて営まれた縄文文化の一端を提示します。

本書を通して多くの方々に地域の歴史を知っていただき、埋蔵文化財を記録保存という形で後世に伝承していくことの一助となることを願います。刊行に至るまでに賜りました地域の方々のご理解と関係諸氏のお力添えに対し敬意を表するとともに、厚くお礼を申し上げます。

令和6年2月

高知県香南市教育委員会

教育長 入野 博

例　言

1. 本書は、香南市香我美町上分における市道整備事業に伴い、平成23年度に香南市教育委員会が実施した庭ヶ淵遺跡の発掘調査報告書である。
2. 庭ヶ淵遺跡は、高知県香南市香我美町上分2974番地他に所在する。
3. 発掘調査は3ヵ月にわたって実施し、発掘調査面積は約300m²である。
4. 調査期間は、平成23年7月8日から同年10月6日かけて発掘調査を行い、併せて基礎整理を平成23・24年度に行なった。また、本報告書の執筆・編集及び整理業務を令和4年4月1日から令和5年9月30日にかけて実施した。
5. 発掘調査時(平成23年度)の調査体制は以下の通りである。

事務担当	小松　誠	香南市教育委員会	生涯学習課	文化振興保護係	係長
タ	田中　一也	タ	タ	タ	主任
調査担当	松村　信博	タ	タ	タ	主監調査員
タ	宮地　啓介	タ	タ	タ	嘱託職員

6. 報告書執筆・編集時の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。

令和4年度	課　長	猪原　加江	会計年度	齋藤　美幸
	係　長	竹中　ちか	任用職員	高橋　加奈
	主幹調査員	横山　藍		高橋　由香
		松井　喬行		藤原　ゆみ
	会計年度	澤田　秀幸		山崎　佐世
	任用職員	岡林　真史		依光　美佐子
		小松　雅子		
令和5年度	課　長	山崎　正博	会計年度	齋藤　美幸
	係　長	竹中　ちか	任用職員	高橋　加奈
	主幹調査員	横山　藍		高橋　由香
		松井　喬行		藤原　ゆみ
	会計年度	澤田　秀幸		山崎　佐世
	任用職員	岡林　真史		依光　美佐子
		森　信輔		

7. 本書の刊行に係る作業につき、平成23年度の発掘調査における土層の観察及び写真撮影、遺構の実測は松村・宮地が行った。令和4・5年度に遺物実測図の点検、本文の執筆・編集は松井が行った。
8. 発掘調査及び遺物整理・実測等は、以下の方々が携わった。

小松経子 齋藤美幸 藤方正治 水田紀子 宮本幸子 山崎佐世 (敬称略)

9. 遺構については、ST(堅穴建物跡)、SK(土坑)、SD(溝跡)、SX(性格不明遺構)、P(ピット)と略号を付し、遺構番号は通し番号を付した。掲載している遺構図の縮尺は、S=1/60で作成した。方位(N)は世界標準座標方眼北(真北)である。

10. 各種遺構図・土層図、及び本文中に記載された高さを示す数値は、T.P.(東京湾平均海面)を基準とする標高値である。

11. 遺物については、土器及び土製品は縮尺 1/3 を基本として掲載し、石製品は各々適切な縮尺で掲載した。各挿図にはスケールを表記している。
12. 第Ⅳ章については、遠都慎氏（中央大学人文科学研究所）の玉稿を賜った。
13. 第V章については、早田勉氏（株式会社 火山灰考古学研究所）の玉稿を賜った。
14. 庭ヶ淵遺跡 I 区出土遺物（宮地啓介、2012、「高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡」、香南市教育委員会）の遺物観察表及び写真図版について、本報告書内に掲載している。
15. 写真図版掲載の出土遺物は、原寸の概ね 1/2 の縮尺に揃えて掲載している。I 区の遺物については、図版番号の前に「I」を付している。
16. 発掘調査作業及び整理作業を行っていただいた方々に感謝する。また、報告書作成にあたっては、香南市文化財センター諸氏の協力と援助を得た。
17. 出土遺物の考察にあたっては、松村信博氏の多大なご教示を賜った。記して謝意を表する。
18. 宮里修氏に出土遺物についての助言を賜った。また、第VI章の執筆にあたり研究論文の引用を快諾いただいた。記して謝意を表する。
19. 調査の実施にあたっては、地域の方々の多大な協力と援助を得た。
20. 出土遺物の註記は、出土略号を「11-NW」とし、実測図・写真資料ともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯.....	1
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境.....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第Ⅲ章 調査成果.....	5
第1節 調査の方法と基本層序.....	5
1. 調査の方法.....	5
2. 遺構平面図.....	6
3. 基本層序.....	7
第2節 Ⅱ区.....	8
1. 竪穴建物跡.....	8
2. 土坑.....	12
3. 溝跡.....	12
4. 性格不明遺構.....	13
5. ピット.....	15
6. 遺物包含層出土遺物・表面採集遺物.....	15
第Ⅳ章 庭ヶ淵遺跡出土試料の ¹⁴ C年代測定.....	23
概要.....	23
1. 測定試料と観察所見.....	23
2. 炭化物の処理.....	23
3. 測定結果と曆年較正.....	24
4. 測定結果について.....	25
第Ⅴ章 庭ヶ淵遺跡の火山灰分析.....	29
1. はじめに.....	29
2. 火山ガラス比分析.....	29
3. 屈折率測定.....	31
4. 考察.....	31
5. まとめ.....	31
第Ⅵ章 総括.....	33
第1節 庭ヶ淵遺跡出土土器.....	33
1. 器種組成.....	33
2. 繩文土器の所属時期.....	33
第2節 庭ヶ淵遺跡の位置付け.....	35

挿図目次

図1	四国における庭ヶ淵遺跡.....	1
図2	庭ヶ淵遺跡調査位置図.....	2
図3	庭ヶ淵遺跡周辺の地形分類.....	3
図4	庭ヶ淵遺跡周辺の遺跡.....	4
図5	調査区遺構平面図 (S=1/200)	5
図6	II区遺構平面図 (S=1/80)	6
図7	II区東壁 セクション図.....	7
図8	II区南壁 セクション図.....	7
図9	ST1 平面図・断面図.....	8
図10	ST1 出土遺物実測図1	9
図11	ST1 出土遺物実測図2	10
図12	ST1 出土遺物実測図3	11
図13	SK1 平面図・断面図.....	12
図14	SK1 出土遺物実測図.....	12
図15	SD2 出土遺物実測図.....	12
図16	SX1 出土遺物実測図.....	13
図17	SX2 出土遺物実測図.....	14
図18	SX3 出土遺物実測図.....	14
図19	SX4 出土遺物実測図.....	14
図20	ピット 出土遺物実測図.....	15
図21	V層 出土遺物実測図1	15
図22	V層 出土遺物実測図2	16
図23	V層 出土遺物実測図3	17
図24	V・VI層 出土遺物実測図	18
図25	VI層 出土遺物実測図1	18
図26	VI層 出土遺物実測図2	19
図27	VI層 出土遺物実測図3	20
図28	VI層 出土遺物実測図4	21
図29	包含層 出土遺物実測図	21
図30	表面採集遺物実測図	22
図31	分析試料の付着状況	23
図32	AAA処理前／後の状況	24
図33	測定試料の較正年代	26
図34	付着炭化物の炭素・窒素同位体比及び炭素同位体比とC/N比	26
図35	庭ヶ淵遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム	30
図36	庭ヶ淵遺跡 TR1 南 火山灰試料の透過光顕微鏡写真	30

図37 庭ヶ淵遺跡出土繩文・弥生土器器種組成	33
図38 庭ヶ淵遺跡出土繩文土器の時期概念図	34
図39 高知県における縄文時代の可能性のある堅穴建物跡	36

表目次

表1 ST1床面ピット計測表	9
表2 ピット計測表	15
表3 分析試料	23
表4 庭ヶ淵遺跡の14C炭素年代(BP)と暦年較正年代(cal BC)	25
表5 庭ヶ淵遺跡の安定同位体比	25
表6 テフラ検出分析結果	30
表7 火山ガラス比分析結果	30
表8 屈折率測定結果	31
II区遺物観察表	39
I区遺物観察表	53

写真図版目次

図版1 II区 ST1 上面 碓検出状態(北より)	
II区 東壁(西より)	
図版2 II区 南壁(北東より)	
I区・II区 遺構完掘状態(西より)	
図版3 II区 ST1 東西バンク 西半部 セクション(南より)	
II区 ST1 東西バンク 東半部 セクション(南より)	
図版4 II区 ST1 完掘状態(南東より)	
II区 ST1 挖削作業風景(南西より)	
図版5 II区 ST1 出土遺物	
図版6 II区 ST1/SK1/SD2/SX1~4/P15 出土遺物	
図版7 II区 P16/V層 出土遺物	
図版8 II区 V層 出土遺物	
図版9 II区 V層/V・VI層 出土遺物	
図版10 II区 VI層 出土遺物	
図版11 II区 VI層 出土遺物	
図版12 II区 VI層/包含層 出土遺物	
図版13 II区 包含層/表採 出土遺物	

图版14 TR2 II层／I区 SK1·2·4／SX4·5 出土遗物

图版15 I区 SX5~7 出土遗物

图版16 I区 SX7·9~11·13·15~17／P8·14·30·45·70·71／火处4 出土遗物

图版17 I区 火处4／包含层／V层／V·VI层／VI层 出土遗物

图版18 I区 V·VI层／VI层 出土遗物

图版19 I区 VI层／包含层 出土遗物

图版20 I区 V·VI层／VI层／包含层 出土遗物

图版21 I区 V·VI层／VI层 出土遗物

图版22 I区 V层／V·VI层／VI层／包含层 出土遗物

第Ⅰ章 調査に至る経緯

高知県香南市香我美町上分における市道堀ノ内南北線整備事業に伴い、平成23年3月に香南市教育委員会が主体となり埋蔵文化財試掘確認調査（以下、試掘調査）を実施した。調査対象地は二級河川である香宗川の支流、山南川右岸に位置し、石垣を築き3段に造成された旧耕作地である。試掘調査の結果、旧耕作土下において縄文土器、弥生土器、土師質土器等を含む遺物包含層（以下、包含層）及びピット状遺構が確認された。試掘調査結果の詳細については、「香南市香我美町上分堀ノ内地区試掘確認調査概報」（香南市教育委員会 2011）及び「高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡」（香南市教育委員会 2012）に記載している。この結果を受け、「庭ヶ淵遺跡」として埋蔵文化財包蔵地を新設し、関係機関と協議の上、香南市教育委員会が主体となり記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成23年7月8日から同年10月6日であり、調査対象面積約1,025m²のうち約300m²につき発掘調査を実施した。



図1 四国における庭ヶ淵遺跡

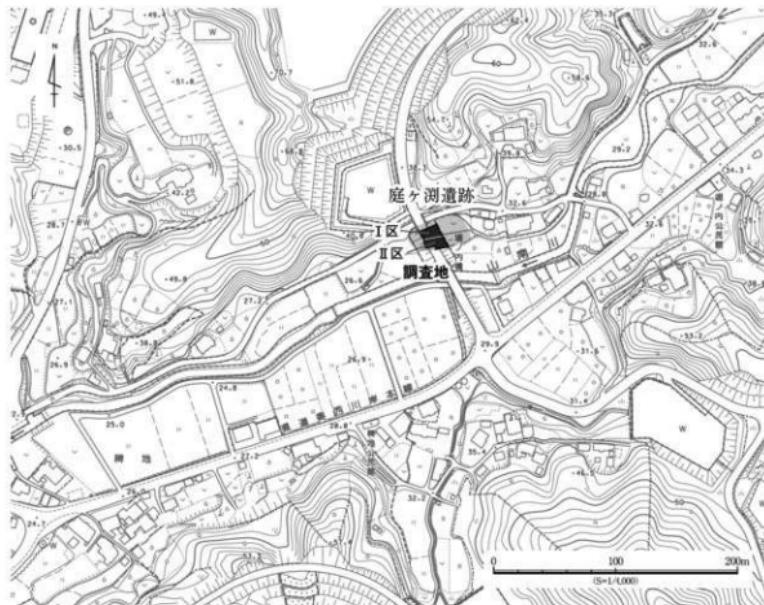


図2 庭ヶ洞遺跡調査地位置図

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

庭ヶ淵遺跡は、海岸線から直線距離約3.5km内陸の谷底低地に所在する。調査地は山南川右岸の河岸段丘上に位置し、調査前の現状は石垣を築いた3段の耕作地であった。山南川は、二級河川である香宗川の支流であり、香我美町上分・山川に所在するカブリ石峰の南西斜面(安尾谷)の源流点から上分・下分境界付近の合流点まで約2.6kmを流下する。調査地周辺の標高は約30mであり、山南川中流域の山地から平野に移行する付近に位置する。調査地が所在する右岸段丘は、耕作地化される以前には山南川河道に向かい緩やかに標高を減じる地形であった。また、調査地西側には、北側低丘陵に由来する小規模な谷地形が形成されている。

四国南部の地質は、北から三波川変成帯、秩父累帯、四万十帯に分類され、フィリピン海プレートの沈み込みによる付加作用により、幅の狭い東西帯状構造をなす地質帯が時代を経るに従い南方に向形成されたと考えられている。秩父累帯南端の三宝山層群はジュラ紀に形成された地層であることが、放散虫化石等の分析から明らかになっている。その地質構造は仏像構造線を隔てて南接する四万十帯の構造と類似し、砂泥互層や枕状溶岩を主体とする緑色岩・チャート・石灰岩を含むメランジ層が交互に累重する。調査地は四万十帯北帯に属し、密な間隔で断層が並走する白亜紀前期の付加体に由来する地層をなす。



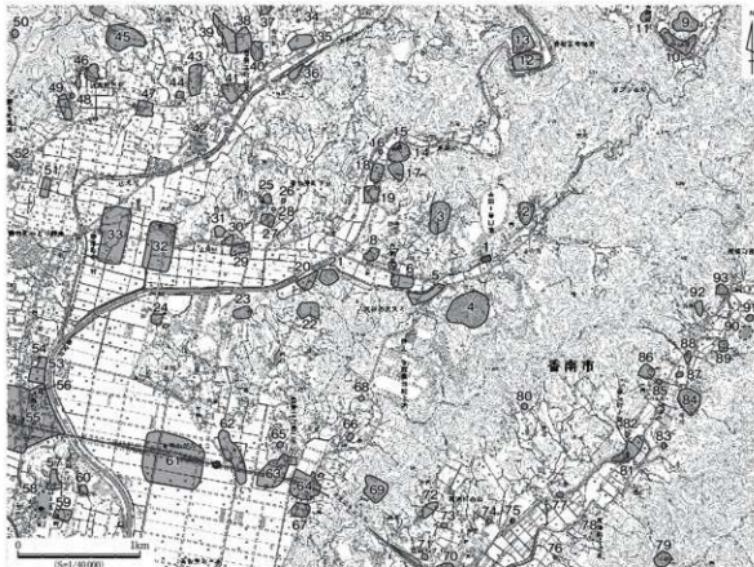
図3 庭ヶ淵遺跡周辺の地形分類

第2節 歴史的環境

庭ヶ淵遺跡が所在する香南市香我美町には、当遺跡付近を流れる山南川の他、香宗川、山北川が流れる。これらの流域には、縄文時代から中世まで多くの遺跡が知られており、昭和期からの発掘調査によって集落等の分布及び変遷が明らかになりつつある。

山南川流域の遺跡は、稗地遺跡、拌原遺跡が発掘調査され、香宗川流域では幡山遺跡、十万遺跡、久保田遺跡、下分遠崎遺跡、曾我遺跡などが発掘調査されている。また、山南川両岸の低丘陵上には、堀の内城跡、岩神城跡、拌原城跡など中世の山城が多く所在することも知られる。

庭ヶ淵遺跡周辺の各時代の様相については、「高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡」で詳細が記述されているため、本書では省略する。



遺跡名	時代／種別	遺跡名	時代／種別	遺跡名	時代／種別
1. 須ヶ洞遺跡	縄文～中世／集落跡	2. 十分瀬遺跡	弥生～中世／集落跡	32. 勝手追跡	弥生～中世／散布地
2. 瓢の内城跡	中世／城跡	33. 曽我追跡	弥生～中世／集落跡	34. 沼の本古墳	古墳／古墳
3. 那須遺跡	弥生～中世／集落跡	35. 五花道跡	古墳～古代／散布地	36. 北川原道跡	弥生～中世／散布地
4. 岩持城跡	中世／城跡	37. 仁玉王道跡	弥生～中世／散布地	38. 真ノ前道跡	弥生～中世／散布地
5. 神代道跡	弥生～古墳～中世／集落跡	39. 仁玉谷道跡	弥生～中世／散布地	39. 真の西道跡	弥生／古墳／集落跡
6. 洋原遺跡	縄文～中世／集落跡	40. 城山城跡	中世／城跡	40. 四ヶ芝道跡	古墳／城跡
7. 神原城跡	中世／城跡	41. 芦田城跡	中世／城跡	42. 芦田城跡	中世／城跡
8. 同城跡	中世／城跡	43. 黒野道跡	中世／散布地	43. 黒野道跡	中世／散布地
9. 山川ノ城跡	中世／城跡	44. 安岡家住宅	近世／聚落跡	44. 安岡家住宅	近世／聚落跡
10. 清瀬遺跡	中世／散布地	45. 釜家城跡	中世／城跡	45. 木村アシノヤシキ遺跡	古代～中世／集落跡
11. 平見城跡	中世／城跡	46. 木村道跡	弥生～中世／散布地	46. 木村古墳	古墳／古墳
12. 福万道跡	中世／散布地	47. 木山古墳	古墳／古墳	47. 木山古墳	古墳／古墳
13. 稲万城跡	中世／城跡	48. 西ノ谷道跡	古代／散布地	48. 西ノ谷道跡	古代／散布地
14. 八王子神社古墳	古墳／古墳	49. 弥生～古墳／集落跡	弥生～中世／散布地	49. 弥生～古墳／集落跡	弥生～中世／集落跡
15. 八王子神社古墳	古墳／古墳	50. 畠田道跡	弥生～中世／散布地	50. 畠田道跡	弥生～中世／散布地
16. 野神古墳	古墳／古墳	51. 兵田崩ノ本道跡	弥生／古墳／祭祀跡	51. 兵田崩ノ本道跡	弥生／古墳／祭祀跡
17. 鶴山道跡	弥生～集落跡	52. 丸山八幡百舌鳥跡	中世／散布地	52. 丸山八幡百舌鳥跡	中世／散布地
18. 中幅道跡	弥生／古墳／集落跡	53. 香宗道跡	中世／散布地	53. 香宗道跡	中世／散布地
19. 下幡道跡	弥生／古墳／集落跡	54. 香宗城跡	中世／城跡	54. 香宗城跡	中世／城跡
20. 十万道跡	縄文～中世／集落跡	55. 鶴野上土居道跡	弥生～中世／集落跡	55. 鶴野上土居道跡	弥生～中世／集落跡
21. 東十万城跡	中世／城跡	56. 安波寺跡	中世／寺跡	56. 安波寺跡	中世／寺跡
22. 十万城跡	中世／城跡	57. ハサマ跡	古代～中世／集落跡	57. ハサマ跡	古代～中世／集落跡
23. 回吉城跡	中世／城跡	58. 別田城跡	中世／城跡	58. 別田城跡	中世／城跡
24. 司谷城跡	中世／城跡	59. 門所の前道跡	古代～中世／散布地	59. 門所の前道跡	古代～中世／散布地
25. 種々谷道跡	弥生～散布地	60. 大東道跡	古墳／中世／散布地	60. 大東道跡	古墳／中世／散布地
26. 種々谷古墳	古墳／古墳	61. 石室道跡	弥生／中世／散布地	61. 石室道跡	弥生／中世／散布地
27. 毛子道跡	古墳～古代／散布地	62. 德王者大崎道跡	弥生～中世／集落跡	62. 德王者大崎道跡	弥生～中世／集落跡
28. 種子1号墳	古墳／古墳				
29. 久保田遺跡	中世／集落跡				
30. 久保田堀免道跡	古代～中世／集落跡				
31. 中城跡	中世／城跡				

図4 庭ヶ洞遺跡周辺の遺跡

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

試掘調査の結果に基づき、段丘の上段をI区、中段をII区として調査区を設定した。調査はII区から着手し、続いてI区を掘削、調査区全体を完掘して記録を取った後、埋め戻した。調査の方法は、重機を用いて表土を掘削した後、手作業による包含層の層位的な掘り下げ、遺構の検出及び掘削という手順により行った。

調査区の測量及び作図に際しては世界測地系第IV系の座標軸を基準とし、図6に示すような方眼を設けて遺構の検出・掘削及び測量、遺物の取り上げを行った。遺物の取り上げに際しては、本書掲載分以外の土器細片等も含め、可能な限り出土地点と層位を記録した。

基本層序については、調査区縁辺部の任意の地点で土層の観察、断面図作成及び写真撮影による記録を行った。個別の遺構の調査については、平面実測及び水準測量、写真撮影、必要に応じて断面図作成による記録を行った。遺構平面図及び土層断面図は、縮尺20分の1を基本として作図を行った。

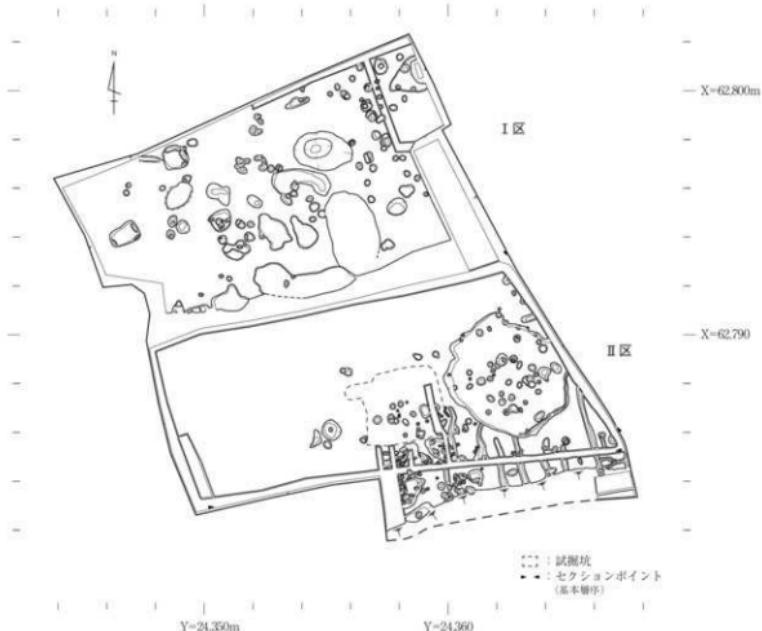


図5 調査区遺構平面図 ($S = 1/200$)

2. 遺構平面図

本書で報告するⅡ区において検出した遺構の完掘平面図を以下に示す。

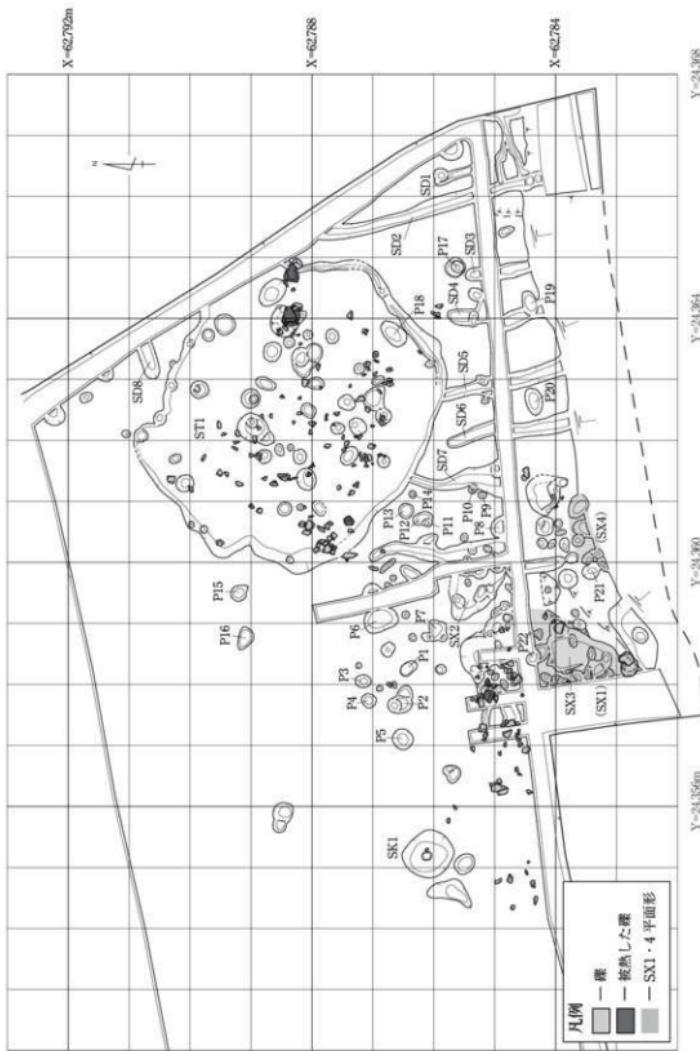


図6 Ⅱ区遺構平面図 (S = 1/80)

3. 基本層序

II区の基本層序は、調査区東壁及び南壁において観察・図化した(図7・8)。耕作地造成に伴い形成された段の中段であるII区は、上段であるI区より標高が1.2m程度低い。また、II区内における地形は、北側から南側に向かい僅かに傾斜して低くなり、南端部において下段に向かい急傾斜する。II区の地表面標高は28.8～28.9m程度である。標高28.2～28.6m程度に堆積するV層及びVI層が包含層である。III層はI区のみの堆積である。包含層を含めた土層は概ね水平堆積をなすが、図7に示すように、造成後の堆積層を除去したV層以下は南に向かい緩やかに傾斜する。V層は暗

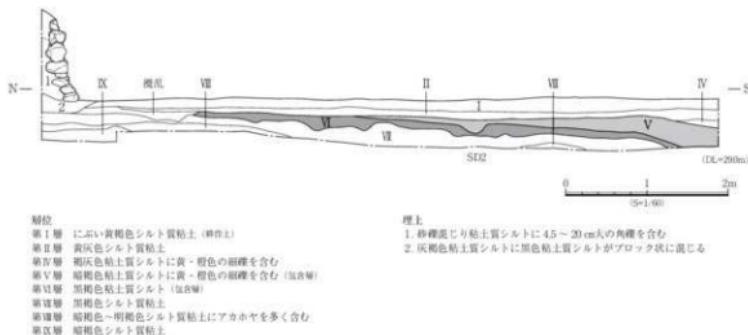


図7 II区東壁 セクション図

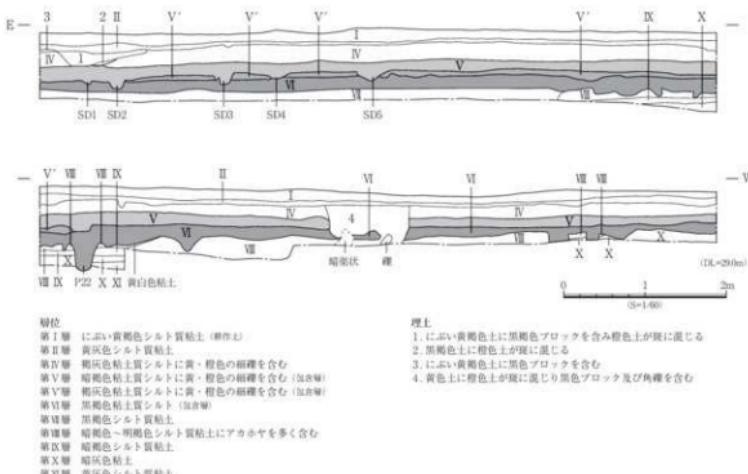


図8 II区南壁 セクション図

褐色粘土質シルト層に黄・橙色の細礫を含む。VI層は黒褐色粘土質シルト層である。また、調査区南壁においてV層とVI層の間に堆積する褐灰色粘土質シルト層を確認した(V'層)。

包含層以下は概ね旧地形に即した自然堆積をなすものと考えられ、上段のI区から南の河川流路に向けて連続的に緩やかに標高を減ずる。このような地形に堆積した層厚30cm程度の包含層は、細礫を含む火山灰由来と考えられる土が土壤化した土層であり、粒径が小さく柔らかい性質である。包含層以下は黒褐色あるいは暗褐色～暗灰色のシルト質粘土が主体の無遺物層である。VII層及びVIII層は火山灰土を含み、粒径が小さく柔らかい性質は包含層と共通する。

なお、VII層の土壌サンプルにつき、火山灰分析を行った(第V章)。

第2節 II区

1. 堪穴建物跡

ST1

ST1は、調査区東端で検出した平面形が多角形(六角形か)の堪穴建物跡と考えられる遺構である。長軸4.90m、短軸4.40mを測り、検出面からの深さは10～20cm、概ね15cm前後である。床面積は約16.2m²、主軸方向はN-37°-Wとみられる。遺構南側の上端は廃絶後の削平により原形を保存していない。断面形はやや不整な逆台形である。床面は基本的に平坦であるが、多くのピットにより凹凸を呈する。埋土は2層で、暗褐色シルト質粘土他である。調査区の地形を反映し、床面は南に向かい緩やかに低くなる。床面標高は北側が28.45m、南側が28.20m程度であり、床面の標高差は南北で約25cmである。床面

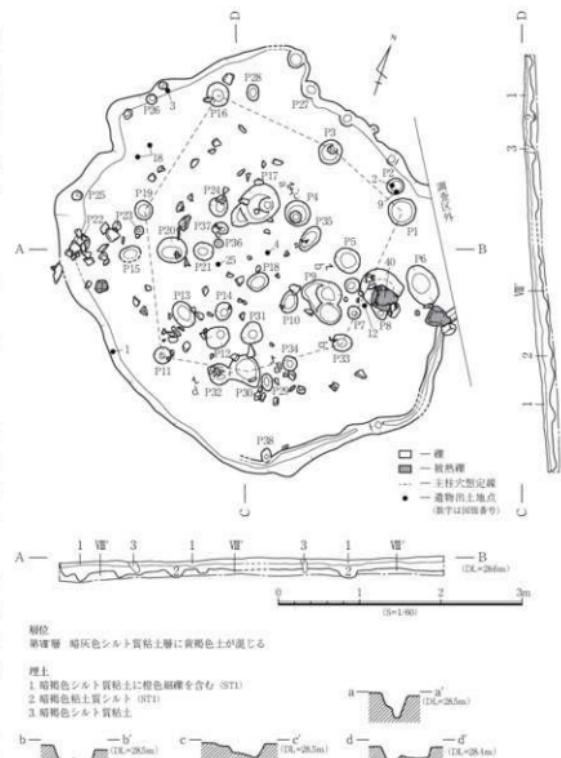


図9 ST1 平面図・断面図

において38個のピットを確認した。図9の平面図に記載のP番号は、床面ピットの番号である。床面ピットの規模は表1に示す通りであり、深さは10~20cm程度が主体であるが、一部25~30cmの深いものもある。埋土はいずれも暗褐色粘土質シルトである。主柱穴は不明であるが、P1・P3・P16・P19等が可能性として考えられる。中央ピットは確認できないが、P9・P17等は比較的規模が大きい。図9の平面図中に示す礫は、ほぼ全てが検出面及び埋土上層で検出したものであるが、P8付近の30cm大の被熱礫(40)は、床面において検出したものであり、ST1に関連する可能性がある。埋土中から縄文晩期の土器をはじめとする遺物が出土した。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(1~22)・浅鉢(23~25)・弥生土器の壺(26~29)・甕(30~33)・鉢(34)・楔形石器(35)・石錐(36)・石錘(37)・叩石(38)・台石(39)・被熱礫(40)である。

表1 ST1床面ピット計測表

遺構名	平面形状	規模	
		直径(m)	深さ(cm)
ST1-P1	円形	0.34×0.32	14
ST1-P2	円形	0.20	11
ST1-P3	円形	0.31×0.28	21
ST1-P4	円形	0.31	31
ST1-P5	円形	0.34×0.30	17
ST1-P6	楕円形	0.60×0.54	9
ST1-P7	円形	0.16	7
ST1-P8	円形	0.18×0.16	8
ST1-P9	楕円形	0.53×0.48	17
ST1-P10	楕円形	0.26×0.20	25
ST1-P11	円形	0.22	14
ST1-P12	不整円形	0.30×0.26	12
ST1-P13	楕円形	0.34×0.24	12
ST1-P14	円形	0.23×0.19	25
ST1-P15	円形	0.28×0.24	8
ST1-P16	円形	0.28×0.26	10
ST1-P17	楕円形	0.50×0.44	18
ST1-P18	楕円形	0.26×0.20	19
ST1-P19	円形	0.24×0.22	19

遺構名	平面形状	規模	
		直径(m)	深さ(cm)
ST1-P20	円形	0.40×0.38	15
ST1-P21	円形	0.30×0.26	12
ST1-P22	円形	0.20×0.18	11
ST1-P23	円形	0.12	11
ST1-P24	円形	0.24	17
ST1-P25	円形	0.12	9
ST1-P26	円形	0.12×0.09	6
ST1-P27	円形	0.24×0.20	14
ST1-P28	楕円形	0.21×0.15	7
ST1-P29	楕円形	0.20×0.12	4
ST1-P30	不整円形	0.40×0.32	14
ST1-P31	不整円形	0.28×0.24	12
ST1-P32	円形	0.26	17
ST1-P33	円形	0.24×0.20	5
ST1-P34	円形	0.20×0.12	6
ST1-P35	楕円形	0.34×0.20	10
ST1-P36	円形	0.10	4
ST1-P37	楕円形	0.20×0.14	4
ST1-P38	楕円形	0.18×0.12	5

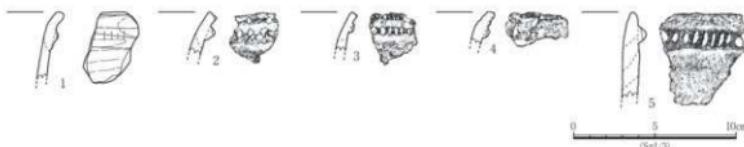


図10 ST1 出土遺物実測図1

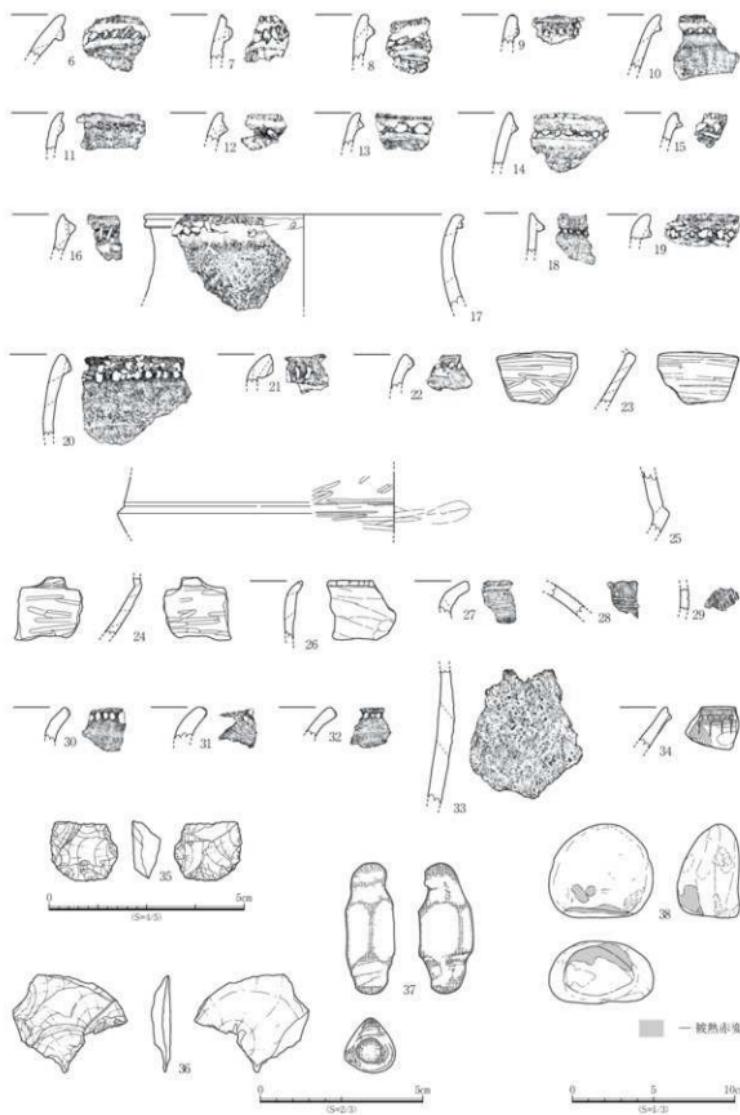


图 11 ST1 出土遗物实测图 2

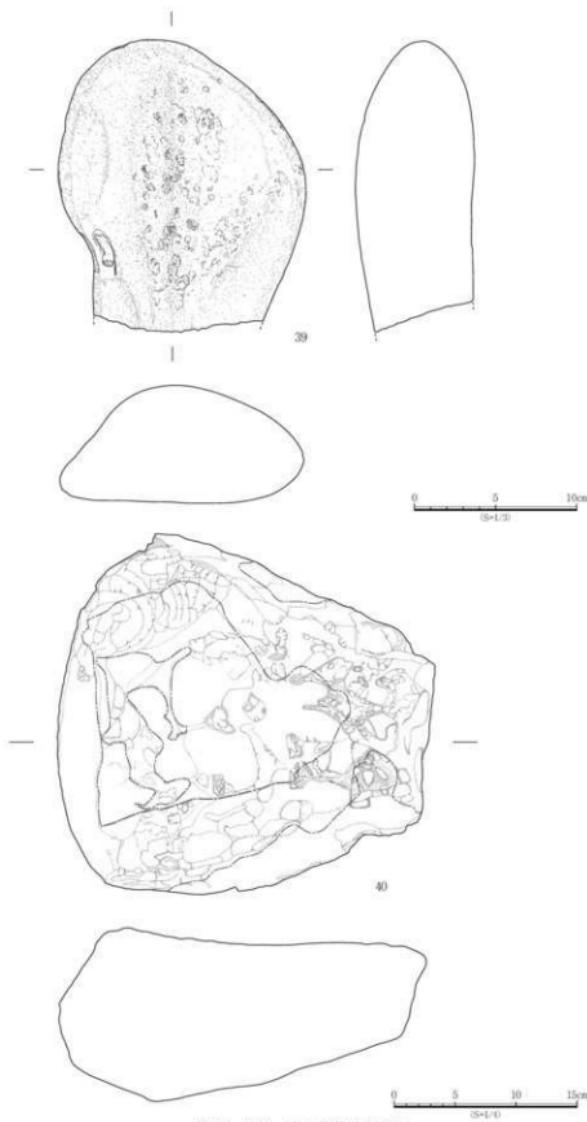


図12 ST1 出土遺物実測図3

2. 土坑

SK1

SK1は、調査区西部で検出した平面形が梢円形の土坑である。長軸0.80m、短軸0.73mを測り、検出面からの深さは61cm（最深部68cm）である。断面形は逆台形である。主軸方向はN-0°である。埋土は黒褐色シルトであり、下層は粘性が高い。床面に直径16cm程度、深さ7cmのピット状の掘り込みがある。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺（41）である。

3. 溝跡

SD1

SD1は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。北側をピットに切られる。確認長は0.60m、幅18cmを測り、検出面からの深さは4cmである。主軸方向はN-16°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD2

SD2は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。北側及び南側は調査区外に延長するとみられる。確認長は3.65m、幅24cmを測り、検出面からの深さは6~10cmである。主軸方向はN-15°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺（42）である。

SD3

SD3は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。南側は造成により削られる。確認長は1.06m、幅22cmを測り、検出面からの深さは7cmである。主軸方向はN-9°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

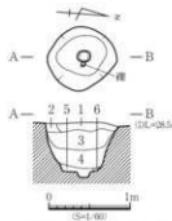
遺物は土器細片が出土した。

SD4

SD4は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。くの字状にやや屈曲する。P19に切られ、南側は造成により削られる。確認長は1.30m、幅28cmを測り、検出面からの深さは5~7cmである。主軸方向は北側がN-0°、南側がN-18°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。遺物は土器細片が出土した。

SD5

SD5は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。ピットに切られ、南側は造成により



1. 黒褐色シルトに灰褐色及び土胎片を含む
2. 黒褐色シルトに灰褐色をやや多く含む
3. 黒褐色粘土質シルトに灰褐色粘土質粒を多く含む
4. 黒褐色粘土質シルトに灰褐色粘土質粒を多く含む
5. 黑褐色粘土質シルト（粘土質）
6. 黑褐色粘土質シルトに黄褐色を多く含む

図13 SK1 平面図・断面図

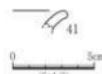


図14 SK1 出土遺物実測図



図15 SD2 出土遺物実測図

削られる。確認長は1.98m、幅30cmを測り、検出面からの深さは5~7cmである。主軸方向はN-14°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD6

SD6は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。僅かに屈曲する。南側は造成により削られる。確認長は1.74m、幅24~30cmを測り、検出面からの深さは3~5cmである。主軸方向は北側がN-17°-W、南側がN-8°-Wである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD7

SD7は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。やや不整な形状を呈する。確認長は1.47m、幅16~55cmを測り、検出面からの深さは3cmと浅い。主軸方向は概ねN-0°である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD8

SD8は、調査区東端で検出した東西方向の溝跡である。確認長は0.58m、幅27cmを測り、検出面からの深さは4cmである。主軸方向は北側がN-71°-Eである。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

4. 性格不明遺構

SX1

SX1は、調査区南部で検出した平面形が不整形の遺構である。SX3の上面で検出した遺構であり、全体の形状は判然としない。長軸1.80m（確認長）、短軸1.00m（確認長）を測り、検出面からの深さは19cmである。埋土は暗褐色シルト質粘土層である。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢（43・44）、弥生土器の壺（45）・甌（46）、土製品（47）である。

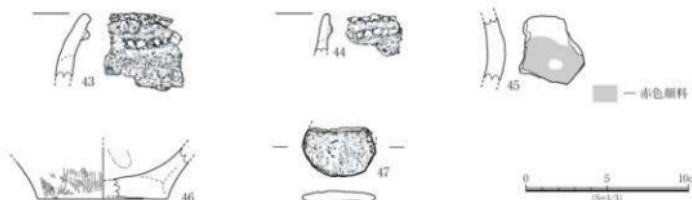


図16 SX1 出土遺物実測図

SX2

SX2は、調査区中南部で検出した平面形が不整橢円形の遺構である。溝状の遺構に切られ、東側の立ち上がりは確認できない。長軸0.94m(確認長)、短軸0.84m(確認長)を測り、検出面からの深さは12cmである。主軸方向はN-73°-Wである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(48)である



図17 SX2 出土遺物実測図

SX3

SX3は、調査区南部で検出した平面形が不整方形の遺構である。長軸0.58m、短軸0.50mを測り、検出面からの深さは11cmである。主軸方向はN-78°-Eである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(49・50)である。

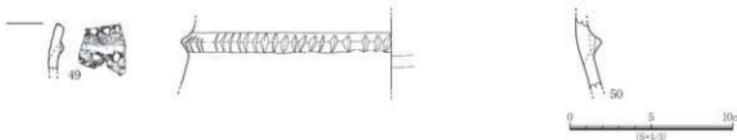


図18 SX3 出土遺物実測図

SX4

SX4は、調査区南部で検出した平面形が橢円形とみられる遺構である。包含層下層で検出し、平面形は判然としない。南側は造成により削られる。長軸1.32m(確認長)、短軸0.41m(確認長)を測り、検出面からの深さは7cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(51)、叩石(52)である。

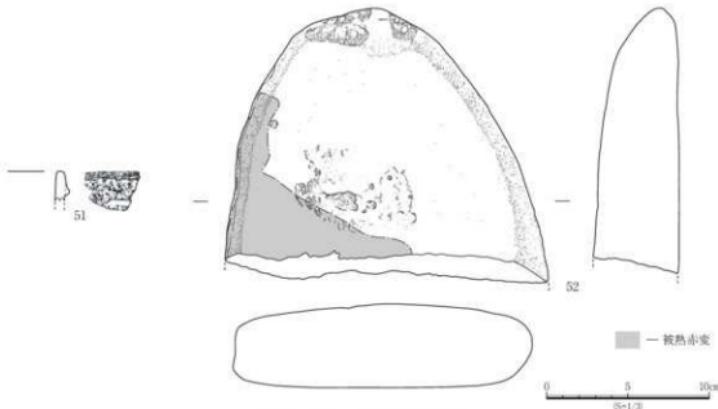


図19 SX4 出土遺物実測図

5. ピット

II区で検出したピットのうち、遺物の出土がみられたものにつき、以下の表2にまとめて掲載する。これらのピットの埋土はいずれも黒褐色粘土質シルトである。P18は埋土に角礫を多く含む。図示した出土遺物は、弥生土器の壺(53・54)である。

表2 ピット計測表

遺構名	平面形状	規模		遺構名	平面形状	規模	
		直径(m)	深さ(cm)			直径(m)	深さ(cm)
P1	楕円形	0.30 × 0.20	15	P12	楕円形	0.34 × 0.20	7
P2	楕円形	0.40 × 0.24	20	P13	円形	0.25	6
P3	楕円形	0.24 × 0.20	6	P14	円形	0.12	5
P4	円形	0.24	17	P15	不整円形	0.30 × 0.24	10
P5	円形	0.32	18	P16	不整円形	0.40 × 0.24	7
P6	楕円形	0.54 × 0.36	18	P17	円形	0.32	24
P7	不整円形	0.34 × 0.28	16	P18	楕円形	0.50 × 0.30	9
P8	円形	0.30	11	P19	楕円形	0.41 × 0.24	7
P9	円形	0.14	7	P20	楕円形	0.40 × 0.26	6
P10	楕円形	0.18 × 0.14	4	P21	楕円形	0.30 × 0.24	9
P11	円形	0.16	7	P22	円形	0.30	27



図20 ピット 出土遺物実測図

6. 遺物包含層出土遺物・表面採集遺物

II区の包含層で出土した遺物、及び表面採集遺物を以下に掲載する。出土層位は、V層及びVI層が主体である(図7・8参照)。V層とVI層を分けえないもの、及び層境界付近出土のものは「V・VI層」とし、出土層位不明のものは「包含層」としている。

図示した出土遺物は、55～247である。器種は、縄文土器の深鉢・浅鉢・壺、弥生土器の壺・甕・鉢、土師器の杯・碗・羽釜、須恵器の壺・甕・捏鉢・高杯・杯・碗、瓦器の碗、陶器の瓶、青磁の碗、土製品、石製品である。



図21 V層 出土遺物実測図

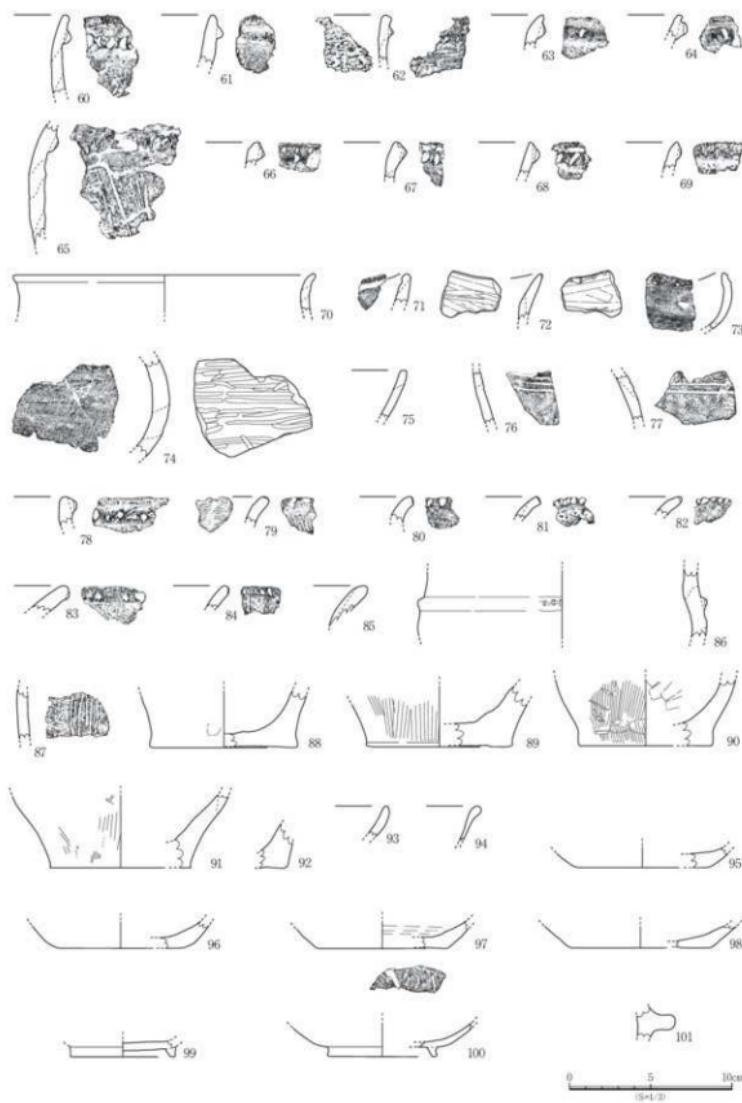


图22 V层 出土遗物实测图2

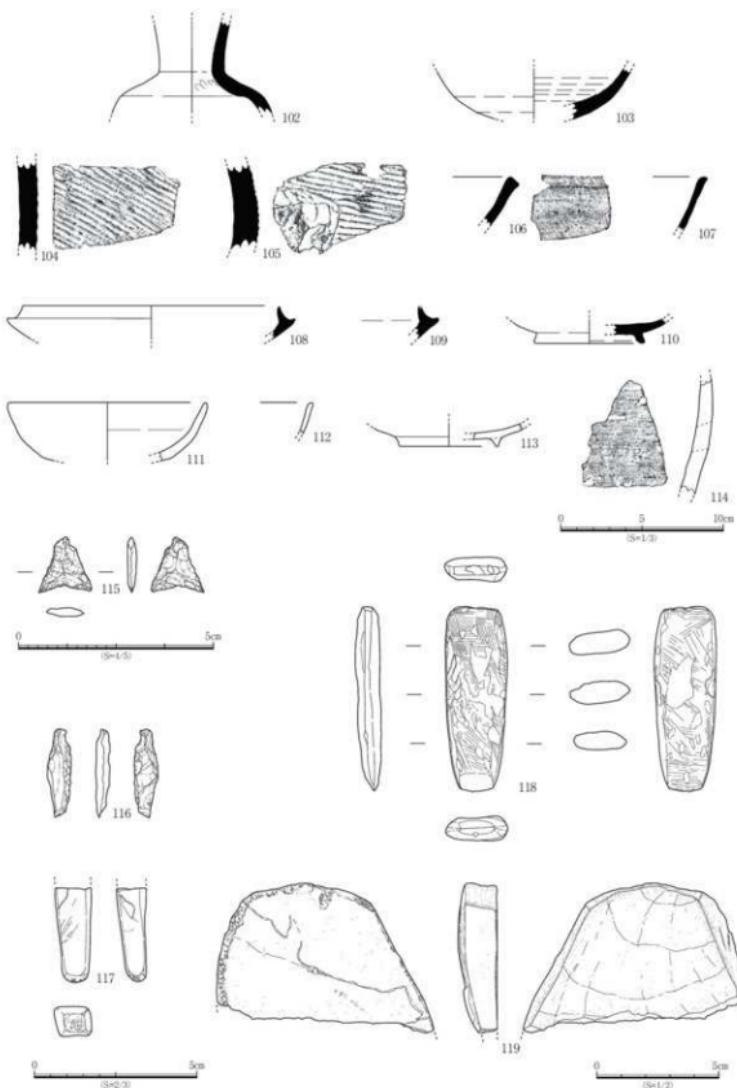


図23 V層 出土遺物実測図3

第2節 II区

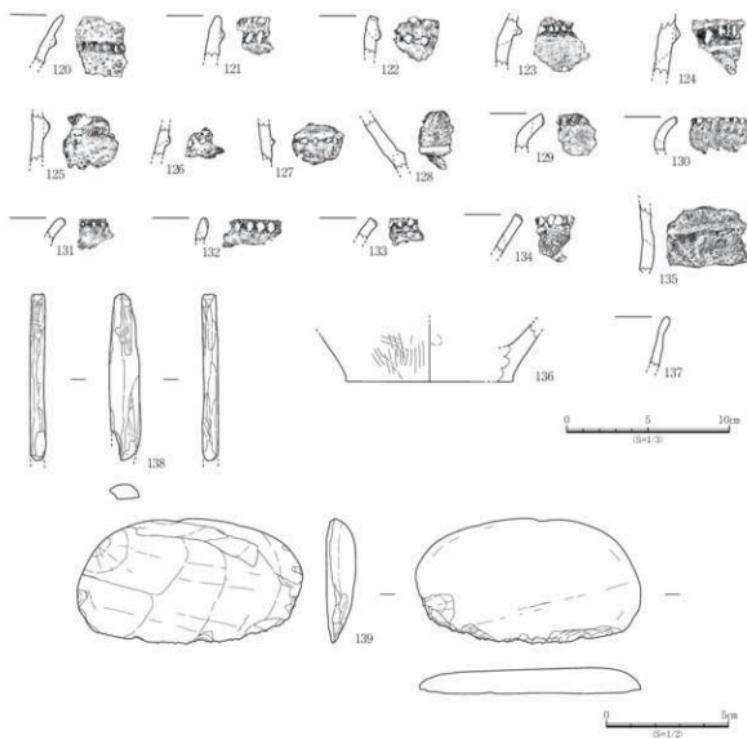


图24 V·VI层 出土遗物实测图

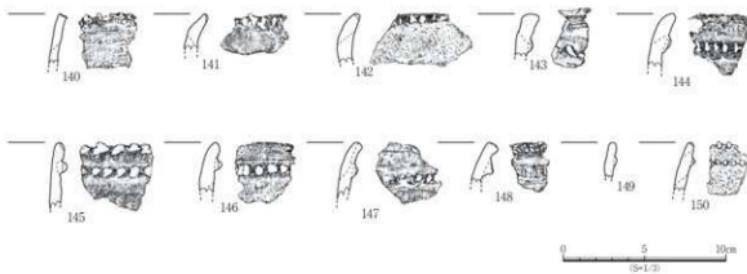


图25 VI层 出土遗物实测图1

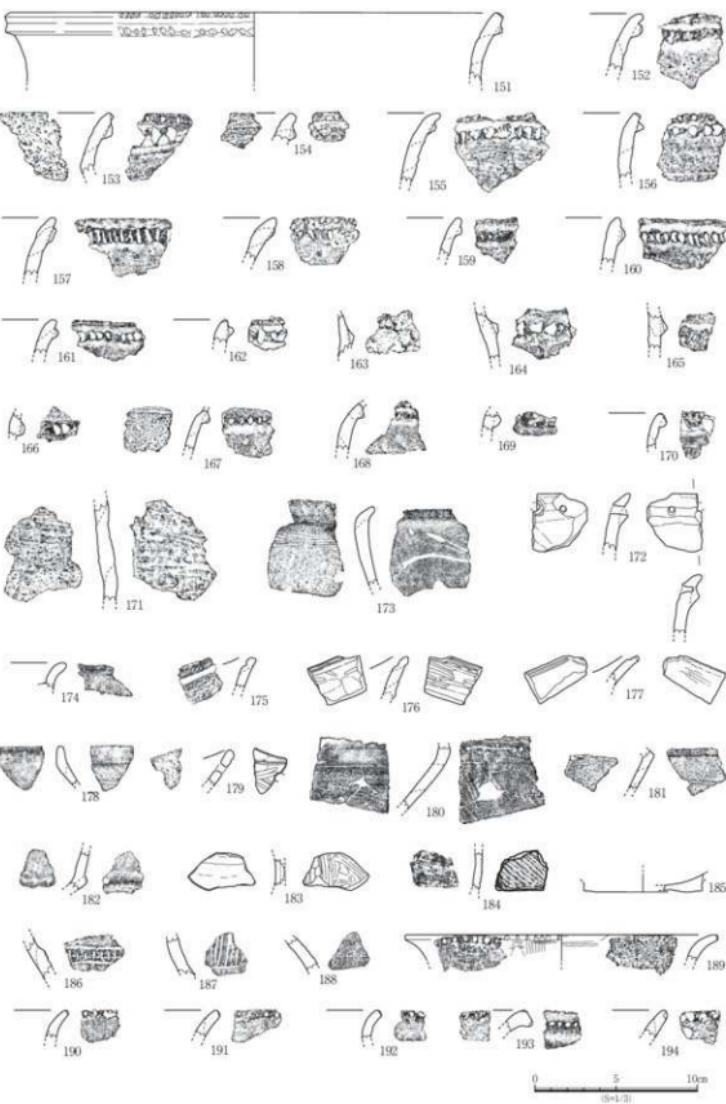


图 26 VI 层 出土遺物実測図

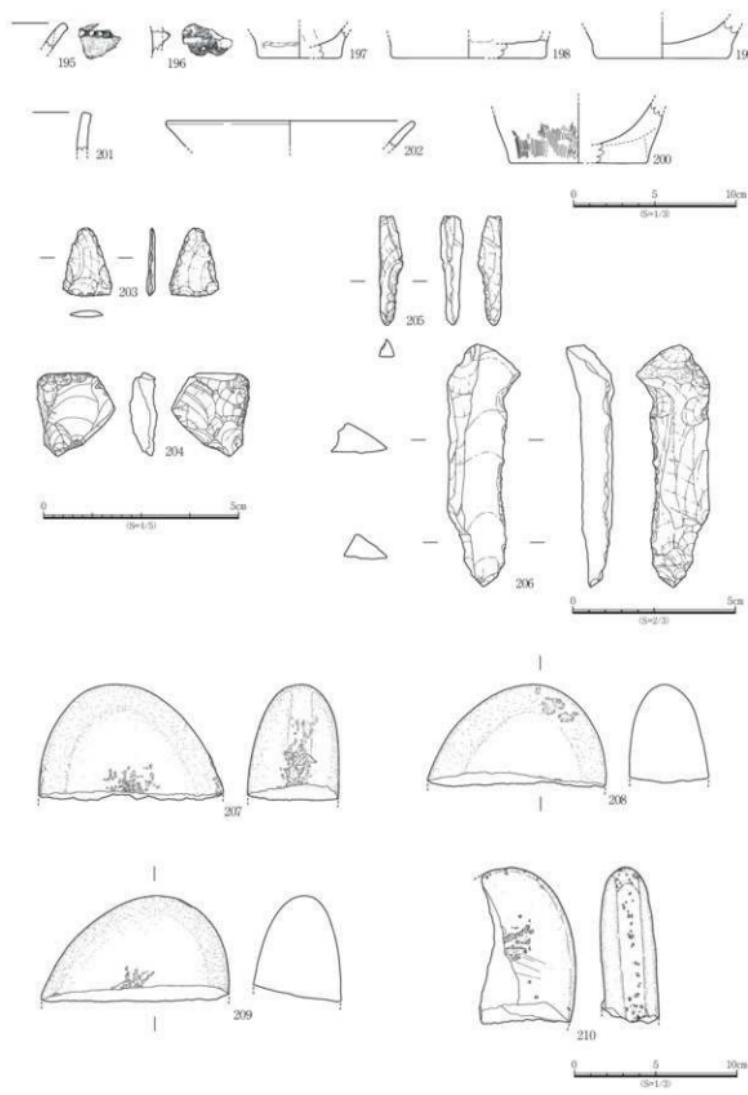


图27 VI层 出土遗物实测图3

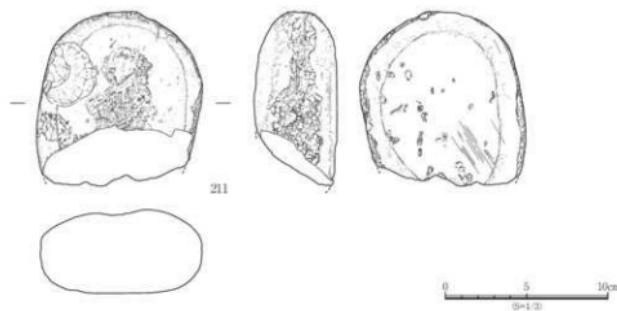


图28 VI層 出土遺物実測図4

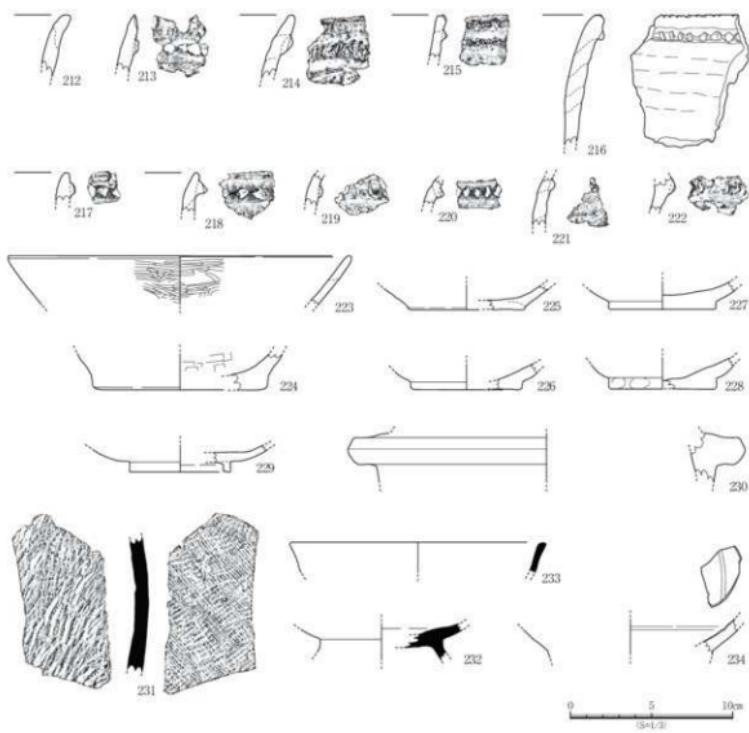


图29 包含層 出土遺物実測図

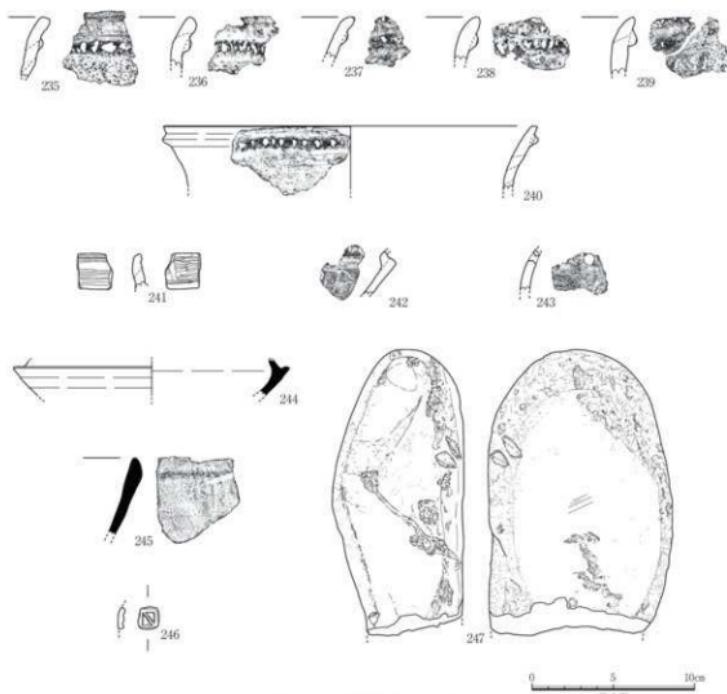


図30 表面採集遺物実測図

第IV章 庭ヶ渕遺跡出土試料の¹⁴C年代測定

遠部 慎（中央大学人文科学研究所）

概要

高知県香南市庭ヶ渕遺跡から出土した炭化物の年代測定を行ったので、その結果を報告する。試料の採取は遠部（当時：北海道大学埋蔵文化財調査室）が採取した。試料の前処理は国立歴史民俗博物館で行い、測定は山形大学（YU）によるものである。測定結果は計測値（補正）とともに、実年代の確率を示す較正年代値を示した。また、その根拠となつた較正曲線を示した。これまで、四国で測定例の少ない縄文時代晚期土器に付着した炭化物の分析例であり、遺跡の年代や利用を考えるうえで、重要な値が得られたと考える。

1. 測定試料と観察所見

測定対象とした試料は、遠部が採取した土器付着物7点のうち、測定可能であった3点（3個体）である（表3）。外面胴部下半に付着した炭化物で煮炊きに伴う煤と焦げだと判断している。試料番号KOKOである（図31）。

表3 分析試料

No	遺跡名	出土地点	採取位置	種類
KOKO-2	庭ヶ渕	ST1 VI層	胴部内面	焦げ
KOKO-6	庭ヶ渕	SX7（I区）	胴部外表面	煤
KOKO-7	庭ヶ渕	ST1 VI層	胴部内面	焦げ



KOKO-2

KOKO-6

KOKO-7

*1 ST1は、調査段階においてはSX1として整理した。

*2 いずれの試料も胴部の破片のため、図示していない。

図31 分析試料の付着状況

2. 炭化物の処理

炭化物試料については、註1に記した手順で試料処理を行った。本試料はバインダー処理等による汚染が懸念されたため、アセトンによる処理を入念に繰り返し、溶解がなくなったことを確認したうえで試料処理を行った。ガス化率、グラファイト化率とも十分な炭素量が得られた。（1）（2）（3）の作業は、（1）は遠部、（2）（3）は山形大学に依頼し、測定は山形大学（YU）で行った。（1）で得られたAAA処理後の試料を用い、炭素含有量及び窒素含有量の測定には（株）SIサイエンスに分析を依頼した。EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用い、スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比を算出し、表5に、試料情報と炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。

3. 測定結果と暦年較正

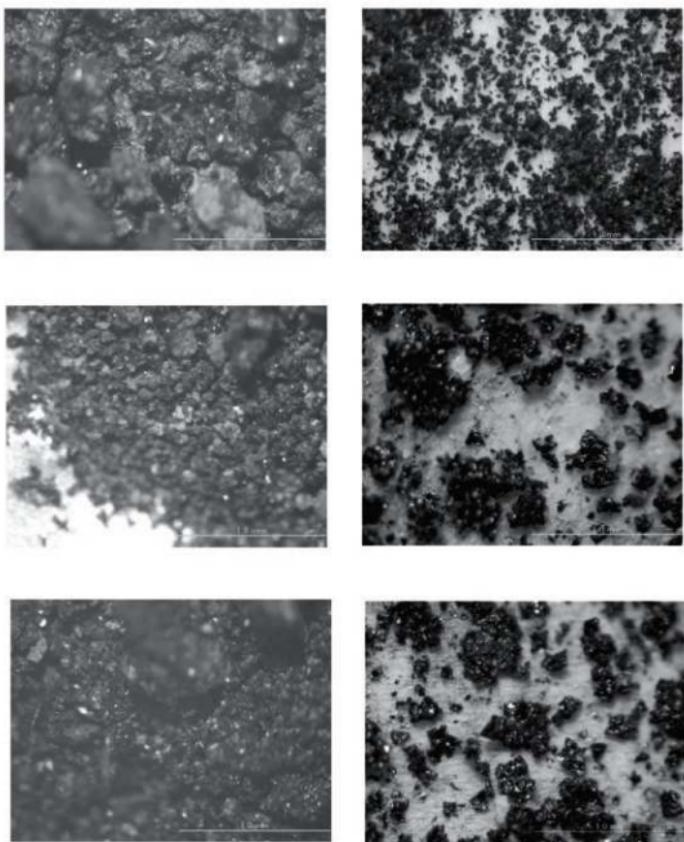


図 32 AAA 处理前／後の状況

3. 測定結果と暦年較正

測定結果は、註 2 に示す方法で、同位体効果を補正し ^{14}C 年代、較正年代を算出した。年代測定結果は、KOKO-2 は $2630 \pm 20\text{BP}$ 、KOKO-6 は $2725 \pm 20\text{BP}$ 、KOKO-7 は $2540 \pm 20\text{BP}$ であった。これを 2σ で暦年較正すると、KOKO-2 は $820 - 790\text{calBC}$ (95.4%)、KOKO-6 は $909 - 822\text{calBC}$ (95.4%)、KOKO-7 は $795 - 747\text{calBC}$ (47.5%)、 $689 - 665\text{calBC}$ (22.1%)、 $644 - 589\text{calBC}$ (20.7%)、 $581 - 556\text{calBC}$ (5.2%) である（表 4、図 33）。 $\delta^{13}\text{C}$ 値の測定は陸上生物を利用した可能性が高いと考えられる（表 5、図 34）。

表4 庭ヶ淵遺跡の¹⁴C炭素年代(BP)と曆年較正年代(cal BC)

試料番号	測定機関番号	$\sigma^{13}\text{C}$ (%)	¹⁴ C炭素年代(BP)	曆年較正年代(cal BC)	確率分布(%)
KOKO-2	YU-1936	(-22.73 ± 0.35)	2630 ± 20	820 - 790	95.4%
KOKO-6	YU-1937	(-22.80 ± 0.30)	2725 ± 20	909 - 822	95.4%
KOKO-7	YU-1938	(-29.08 ± 0.44)	2540 ± 20	795 - 747 689 - 665 644 - 589 581 - 556	47.5% 22.1% 20.7% 5.2%

表5 庭ヶ淵遺跡の安定同位体比

試料番号	$\sigma^{13}\text{C}$ (%)	$\sigma^{15}\text{N}$ (%)	Total N (%)	Total C (%)	C/N (mol)
KOKO-2	-24.8	2.1	4	52.9	13.1
KOKO-6	-26.5	8.4	1.3	39	29.5
KOKO-7	-26.3	10.1	2.6	52.8	20.6

4. 測定結果について

庭ヶ淵遺跡の土器付着炭化物から得られた年代値はSX7 ($2725 \pm 20\text{BP}$) とST1 ($2630 \pm 20\text{BP}$ 、 $2540 \pm 20\text{BP}$) である。庭ヶ淵遺跡のST1では沢田式(第VI章参照)が主体と考えられた。縄文晩期土器付着炭化物の年代測定は比較的多く実施されており、それらと比較することでその年代値を評価したい。

高知県域では、土佐市上ノ村遺跡で、 $3055 \pm 45\text{BP}$ (MTC-11520: 無刻目突帯文)、 $3160 \pm 40\text{BP}$ (MTC-11504)、 $3180 \pm 50\text{BP}$ (MTC-11505)・ $2945 \pm 35\text{BP}$ (MTC-07428) の測定例がある(藤尾・坂本2012)。また、晩期の一括性の高い資料で年代測定を行われた例として香美市美良布遺跡Pit1の資料がある。そこでは $2880 \pm 40\text{BP}$ (-18.2%)、 $2940 \pm 40\text{BP}$ (-23.6%)という測定値が得られている(松本編2006)。高知県に近い愛媛県久万高原町猿楽遺跡の突帯文土器以前の土器群からは、 $2950 \pm 30\text{BP}$ (TKA-17459)、 $2919 \pm 30\text{BP}$ (TKA-17460)、 $2895 \pm 29\text{BP}$ (TKA-17461)(柴田・遠部編2017)という測定値が得られている。また、後続する土佐市居徳遺跡の前池式が $2810 \pm 40\text{BP}$ (-25.1%)である(藤尾2013)。こういった状況と、庭ヶ淵遺跡ST1の状況は矛盾しない測定値と判断される。

本稿の測定結果は、「基盤研究(B) 25284153 炭素14年代測定による縄文文化の枠組みの再構築-環境変動と文化変化の実年代体系化」(代表小林謙一)の成果の一部である。本実験にあたり松村信博氏には資料調査から分析まで、さまざまご配慮をいただいた。また、国立歴史民俗博物館・学術創成研究グループ、北海道大学埋蔵文化財調査室、犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム、小林謙一、坂本稔、柴田昌児の諸先生、諸氏には資料調査や位置付けについて、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

4. 測定結果について

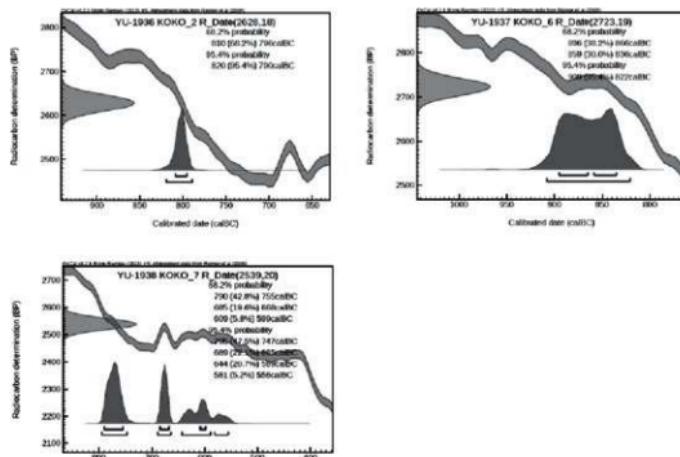


図33 測定試料の較正年代

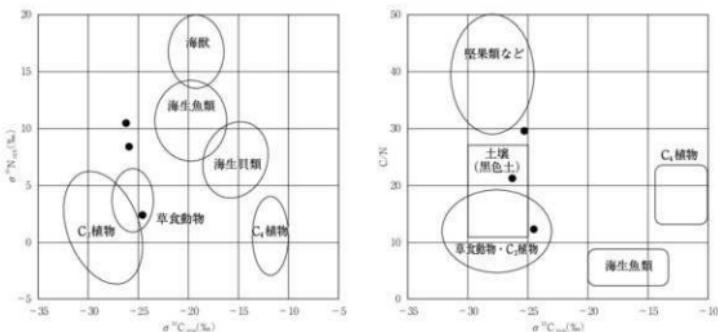


図34 付着炭化物の炭素・窒素同位体比及び炭素同位体比とC/N比（吉田・宮崎 2007 をもとに作成）

註1 土器付着物については下記の方法で処理した。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄

AAA処理に先立ち、土器付着物については、顕微鏡等で確認し、不純物を除去した。さらに、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA処理として、80°C、各1時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(NaOH、1回目0.1N、3回目以降1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5回以上を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理2回(1N-HCl 1時間)を行いアルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(4回)。

(2) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で、850°Cで3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

(3) グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。1.5mgの炭素量を目標に二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で、およそ600°Cで12時間加熱してグラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合させた後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

註2 測定値について、以下の方法で較正年代を算出した。

年代データの¹⁴CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した¹⁴C年代(モデル年代)であることを示す。¹⁴C年代を算出する際の半減期は、5568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の¹³C/¹²C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した¹³C/¹²C比により、¹⁴C/¹²C比に対する同位体効果を調べ補正する。¹³C/¹²C比は、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの¹³C/¹²C比)に対する千分率偏差 $\delta^{13}\text{C}$ (パーミル‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる¹⁴C/¹²C比によって補正する。補正した¹⁴C/¹²C比から、¹⁴C年代値(モデル年代)が得られる。加速器による測定は同位体補正効果のためであり、必ずしも¹⁴C/¹³C/¹²C比を正確に反映しないこともあるため、加速器による測定を参考として付す。

測定値を較正曲線IntCal13(¹⁴C年代を曆年代に修正するためのデータベース、2013年版)(Reimer et al 2013)と比較することによって曆年代(実年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、曆年代の推定値確率分布として表す。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦cal BCで示す。()内は推定確率である。

参考文献

- 柴田昌児・遠部慎編 2017『猪奈遺跡・山棱の弥生集落確認調査概要報告書』久万高原町教育委員会
- 藤尾慎一郎 2013『弥生文化像の新構築』雄山閣
- 藤尾慎一郎 2014『西日本の弥生稻作開始年代』『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集、113-143頁、国立歴史民俗博物館
- 藤尾慎一郎・坂本稔 2012『上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査』『高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第127集・上ノ村遺跡III 208-212頁、(財)高知県文化財開拓埋蔵文化財センター
- 西本豊弘編 2009『弥生農耕の起源と東アジア』国立歴史民俗博物館
- 松本安紀彦編 2006『仁井田遺跡』香北町教育委員会

- 山本直人 2007 「文理融合の考古学」 高志書院
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子 2007 「煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究」「平成 16-18 年度科学研究補助金基礎研究 B（課題番号 16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食 植物の研究」 85 - 95 頁
- Reimer Paula J et al. (2004) IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).
- Stuiver M, Reimer P J, Bard E, Beck J W, Burr G S, Hughen K A, Kromer B, McCormac F G, v d Plicht J and Spurk M. (1998) IntCal98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40(1), 1041-1083
- Reimer P J, William E N Austin, Edouard Bard, Alex Bayliss, Paul G Blackwell, Christopher Bronk Ramsey, Martin Butzin, HaiCheng, R Lawrence Edwards, Michael Friedrich, Pieter M Grootes, Thomas P Guilderson, Irka Hajdas, Timothy J Heaton, Alan G Hogg, Konrad A Hughen, Bernd Kromer, Sturt W Manning, Raimund Muscheler, Jonathan G Palmer, Charlotte Pearson, Johannes van der Plicht, Ron W Reimer, David A Richards, E Marian Scott, John R Southon, Christian S M Turney, Lukas Wacker, Florian Adolphi, Ulf Büntgen, Manuela Capano, Simon M Fahrni, Alexandra Fogtmann-Schulz, Ronny Friedrich, Peter Köhler, Sabrina Kudsk, Fusa Miyake, Jesper Olsen, Frederick Reinig, Minoru Sakamoto, Adam Sookdeo and Sahra Talamo. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon 62(4), 725-757

第V章 庭ヶ淵遺跡の火山灰分析

早田 勉（株式会社 火山灰考古学研究所）

1. はじめに

四国地方南部に位置する香南市とその周辺には、姶良、鬼界、阿多、阿蘇など、南九州や中九州のカルデラ火山に由来するテフラ（いわゆる火山灰）が分布している。また、中国地方や中部地方などに位置する火山からテフラが降灰している可能性もある。それらの多くは、すでに年代や岩石記載的特徴が明らかにされており、層位関係を把握することで、地形や地層の形成年代のみならず、遭構や遺物包含層の年代などについてもわかるようになっている。この火山灰編年学（tephrochronology、テフロクロノロジー）は、わが国の第四紀研究を特徴づける方法となっている。

香南市庭ヶ淵遺跡の発掘調査でも、テフラを含む可能性が高い土層（TR1 南¹～Ⅳ層）が検出されたことから、その中に含まれるテフラの起源についてのテフラ検出分析を実施し、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。分析としては、火山ガラス比分析（テフラ検出分析を含む）と、火山ガラスの屈折率測定を実施した。

2. 火山ガラス比分析

（1）分析方法

TR1 南のⅣ層を対象にテフラ検出分析と火山ガラス比分析を実施して、試料に含まれるテフラ粒子の量や特徴の把握を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) とくに純度が高い部分から試料 12g を採取。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながら、丁寧に泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡でテフラ粒子の量や特徴を観察（テフラ検出分析）。
- 5) 分析筒により、1/4 ~ 1/8mm 及び 1/8 ~ 1/16mm の粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で、1/4 ~ 1/8mm の 250 粒子に含まれる火山ガラスの色調形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

（2）分析結果

テフラ検出分析と火山ガラス比分析の結果を表6と表7に示す。また、火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図35に示す。

TR1 南のⅣ層には、軽石やスコリアなど比較的粗粒のテフラ粒子は含まれていない。その一方で、多くの火山ガラスが認められる。火山ガラスには、平板状のいわゆるバブル型や、繊維束状に発泡した軽石型ガラスが多い。それらの色調は、無色透明、淡褐色、褐色である。厳密には、透明でもごくわずかに褐色がかった色調のものが多い。鉄鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石や单斜輝石がほぼ同率で含まれている。

また、定量的な火山ガラス比分析を実施した結果、TR1 南のⅣ層に含まれる火山ガラス（1/4 ~ 1/8mm）の比率は 85.2% と高率であることが明らかになった。その内訳を色調形態別にみると、比率が高い順に無色透明のバブル型（58.8%）、繊維束状に発泡した軽石型（12.4%）、淡褐色のバブル型（10.8%）、褐色のバブル型（2.8%）等である。

2. 火山ガラス比分析

表6 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
TR1 南	V層	-	-	-	多量	bw>pm	cl, pb, br	opx, cpx

形態 bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, 色調 cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, 重鉱物 opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石

表7 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
TR1 南	V層	147	27	7	1	0	31	37	250

数字は粒子数, 形態 bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 色調 cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色

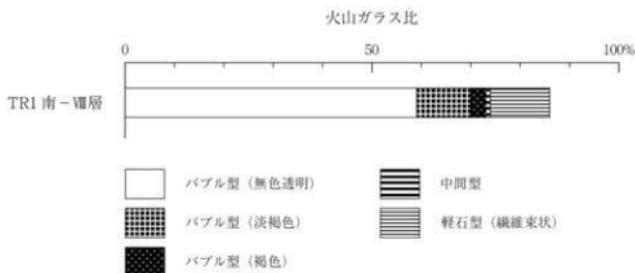


図35 庭ヶ淵遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム

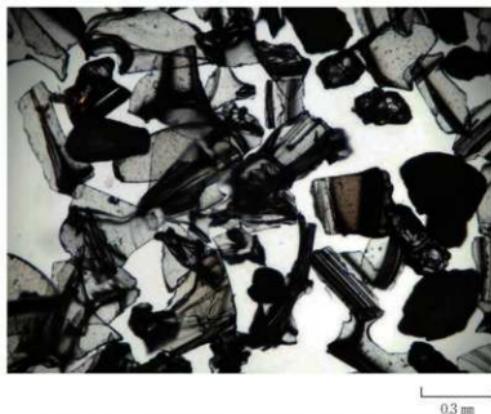


図36 庭ヶ淵遺跡 TR1 南 火山灰試料の透過光顕微鏡写真

3. 屈折率測定

(1) 測定方法

TR1 南のⅦ層に含まれる火山ガラス (1/8 - 1/16mm) を対象に、屈折率 (n) の測定を実施した。測定には、温度変化型屈折率測定装置 (京都フィッシュン・トラック社製 RIMS2000) を使用した。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表8に示す。TR1 南のⅦ層に含まれる火山ガラス (33粒子) の屈折率 (n) は、1.509 - 1.514 である。なお、水和 (風化) がさほど進んでいないものが多いことが特徴である。

表8 屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラスの屈折率 (n)	測定粒子数	文献
庭ヶ淵遺跡 TR1 南 - Ⅶ層	1.509 - 1.514	33	本報告
鬼界アカホヤ (K-Ah, 7.3 ka)	1.508 - 1.516	-	町田・新井 (2003)
姶良 Tn (AT, 28-30 ka)	1.499 - 1.501	-	町田・新井 (2003)

屈折率測定は、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS2000) による。

ka : 1,000 年前

4. 考察

TR1 南のⅦ層に含まれる火山ガラスは、淡褐色や褐色など有色のバブル型が多いこと、屈折率特性、水和があまり進んでおらず噴出年代が比較的新しい可能性が高いことなどから、約7,300 年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1978, 1992, 2003) に由来する可能性が非常に高い。さらに、同定精度を向上させるためには、信頼度の高いEPMA (エレクトロンプローブX線マイクロアナライザ) を利用しての火山ガラスの主成分化学組成分析が行われると良い。

なお、今回の分析は送付試料を対象としたもので、分析者による現地での土層観察の機会は得られなかった。土層に K-Ah 起源のテフラ粒子が多いことだけでは K-Ah の降灰層準の認定はできず、その降灰層準を求めるためには鉛直方向に沿って規則的に、あるいは土層ごとに採取された複数の試料の分析が必要である。

実は、日本列島のかなり広い範囲で、K-Ah の降灰後に明色の土層が形成されているらしい (例えば群馬県域の淡色黒ボク土, 早田, 1990)。この土層の形成要因については不明な点が多く、南九州地域のいわゆる「二次アカ」土層などのような K-Ah の降灰の直接的影響以外に、植生、気候変化による斜面崩壊・土石流・泥流・洪水の多発、さらにはヒトの山間地域での開発なども考えられる。この問題は考古学研究に関係する可能性も高いことから、今後も、土層の年代のみならず、形成要因などに関する分析などの実施が期待される。

5. まとめ

香南市庭ヶ淵遺跡で採取された試料 (TR1 南 - Ⅶ層) を対象に、テフラ検出分析を含めた火山ガラス比分析と、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約7,300

5.まとめ

年前)に由来する可能性が非常に高いテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

註

- (1) 宮地啓介, 2012.『高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ浜道路』、香南市教育委員会、4 – 5 頁

文献

- 町田洋・新井房夫、1978.『南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰』、第四紀研究 17、143 – 163 頁
町田洋・新井房夫、1992.『火山灰アトラス』、東京大学出版会、276 頁
町田洋・新井房夫、2003.『新編火山灰アトラス』、東京大学出版会、347 頁
早田勉、1990.『群馬県の自然と風土』、群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編 1 原始古代 1」、37 – 129 頁

第VI章 総括

第1節 庭ヶ淵遺跡出土土器

1. 器種組成

庭ヶ淵遺跡において出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、青磁、陶器、土製品、石製品、鉄製品である。このうち土器の組成は、大半が縄文土器であり、少量の弥生土器、その他古代～中世と考えられる土器が僅かに出土している。本遺跡の主体をなす縄文土器と弥生土器の器種別構成比率は、図37に示すとおりである。縄文土器は全体の8割近くを占め、そのすべては縄文時代晩期のものであり、の中でも突帯文期Ⅱ～Ⅲ期（後述）に所属するものが主体と考えられる。縄文土器のうち深鉢は8割以上を占め、残りは浅鉢及びその変容形とみられる壺で構成されている。深鉢は刻目突帯文土器が大半を占め、粗製深鉢とみられる土器が僅かに出土している。その他、孔列文土器が包含層（V層・VI層）から出土した。浅鉢は、上記の時期を中心とするもので、内折口縁浅鉢、波状口縁方形浅鉢、変容壺、無頸壺といった器形や、北陸系・東日本系と考えられるものが出土している。弥生土器については、弥生時代前期前半に所属する西見当式土器^①が包含層から一定量（判断できるもので18点）出土している。縄文時代晩期の土器については、宮里修氏^②による型式分類・組列が設定されており^{③④}、本節ではその分類に準拠して庭ヶ淵遺跡出土縄文土器を検討する。

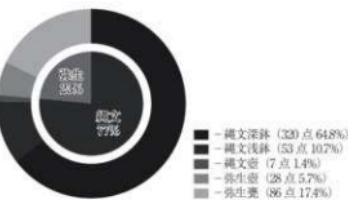


図37 庭ヶ淵遺跡出土縄文・弥生土器器種組成

2. 縄文土器の所属時期

高知県における縄文時代晩期の土器は、一定のまとまりをもつ資料として土佐市上ノ村遺跡、土佐市居徳遺跡などの出土資料が知られる。南四国出土の縄文時代晩期の深鉢と磨研鉢（浅鉢）について、宮里氏により9つの段階が設定されている（2022）。各段階の対応関係及び型式の分類は、図38に示すとおりである。本遺跡出土縄文土器は残存状態が不良な破片が多くを占めるが、口縁部形態などから識別可能な浅鉢を手掛かりに所属時期を検討する。以下、図38に沿って記述する。

浅鉢は内折口縁A及び同B、波状口縁方形浅鉢B及び同Cが、遺構及び包含層出土土器として一定量確認された。これらは6段階及び7段階、すなわち突帯文Ⅱ期とされる津島岡大式及び沢田式併行期に所属する。続く8段階に所属する東日本系と考えられるものや縱隆帯を持つものが包含層出土土器において僅かに認められる一方で、波状口縁方形浅鉢Aなど5段階以前に所属するものはみられない。

深鉢は、時期差の関係にある刻目突帯短頭型、刻目突帯喇叭型、刻目突帯長頭型の3型式が本遺跡出土の該当段階のものとして存在し、各型式に跨って変化する突帯の種類として、端接突帯、二連突帯などがある。上記の3型式を上位の分類基準、突帯の種類を下位の分類基準と捉えて、識別可能なものを図38に列記した。3型式はいずれも遺構及び包含層からの出土土器として確認された。

縄文時代後期土器の型式相列



参考文献 2022「南四国縄文後期深鉢の型式相列と相列」
高知考古学研究 第6号 17頁 第7回全1件作成

庭ヶ洞遺跡出土縄文土器の区分

Table showing the classification of Jōmon pottery from the Toge-no-dani excavation site, divided into Deep-pit (深鉢), Polished-pit (磨研鉢), and Segmental (段階) categories. The table includes detailed measurements and vessel types for each category.

土器の分類別度量のイメージ

註(図38内)

- (1) 南四国と関係が深い備讃瀬戸地域における突宍文土器については、平井勝(1988)による岡山県北房町谷尻遺跡、山陽町南方前池遺跡、倉敷市広江・浜田遺跡、岡山市立岡山川浜田遺跡の資料の検討により、既存突宍文器である前池式・浜田式と先型型式である谷尻式との関係を整理したことにより年代輪が構成された。その後、岡山市立岡山大遺跡の資料から前池式と浜田式の間に津島岡大式とされる服部が設定され、小畠祐一(2012)による同段階の詳細な検討を経て、突宍文土器がI～III期に区分された。新社市脇部遺跡の資料による服部型は、器形の特徴から則日突宍長頭型へとつながる型式と考えられ、小畠(2012)により浜田式に統く第三期に位置付けられた。
- (2) 宮里(2022)による南四国の筋跡の詳細な検討により、繩文晩期末から弥生早期にかけて9つの段階が設定された。深鉢については、宮里(2022)により、各段階に対応する型式組列が示された。南四国においては、上ノ村II型、上ノ村T型、先倉型、倉戸型、則日突宍短頭型、則日突宍長頭型、居地型という推移を辿る。弥生土器の最古段階と考えられる東松木式は8段階に出現し、その後9段階にかけて西見当I・II式が存在する。
- (3) 磨研鉢と深鉢の種別及び型式は、宮里(2016～2022)において提示され、詳細に記述されている。庭ヶ洞遺跡において確認された種別・型式について概略を列記する。「磨研鉢」内折口縁浅鉢A：頭部を内方に立ち上げるもの、内折口縁浅鉢B：丸頭から口縁部が上方に立ち上がるものの、波状口縁方形浅鉢C：頭部から折削して立ち上がる口縁部が外方に近く延びるもの。波状口縁方形浅鉢C：頭部から立ちをもつた丸頭に変わり、直角化した頭部折削が段丘部となってしまった。要容窓・無頭窓：要容窓が内折頭がA型からB型へ変化する過程で派生し成立。無頭窓は要容窓と同様の背景のもと要容土器の肩部を移植することで成立した。「深鉢」時期の関係をもつ以下の3型式がある。則日突宍短頭型：頭最大径から丸頭部がゆるく開くものの、口縁の外反は小さく、口径と頭最大径は同程度か頭最大径がやや大きい。器壁は厚い。則日突宍短頭型：頭最大径からやや頭をめぐつて口縁部が大きく外反して開くもの。最大径は口縁部にあるが頭部に比べ開きは小さい。下位突宍を特徴とし、則日は幅く深い。以上の3型式のほかに、各型式に跨って変化する突宍の種類がある。端接突宍：突宍が口縁端部に接し、口唇と突宍上面が一体となって整形されるもの。逆二連突宍：土器に正対したと外反する口唇割が則日突宍と同様の装飾効果をもち、口縁突宍とともに見かけの上で二連突宍となるもの。二連突宍：口縁端部に貼付けによる2条の則日突宍を盛らしたもの。下位突宍：口縁の下方に位置する細く薄い突宍に浅く小さな刻みが加えられたもの。

図38 庭ヶ洞遺跡出土縄文土器の時期概念図

図38に掲げたものは確定的な判断が可能なものに限っており、この他残存状態の不良な多くの突帯文土器も、3型式のいずれかに属する可能性が高いとみられる。突帯の種類についても同様で、各種が遺構及び包含層から出土している。刻目突帯短頭型は5段階に出現し、7段階において喇叭型が出現するまで存在するとされるもので、庭ヶ淵遺跡出土土器に一定量が認められる事実と整合する。8段階の刻目突帯長頭型や二連突帯を持つものは比較的少なく、この傾向は浅鉢における同段階の低い分布密度に対応しているとみることができる。刻目突帯短頭型から刻目突帯喇叭型への移行には時期的隔たりがあり、この間を埋める型式が発見される可能性があるとされている（宮里2022）。庭ヶ淵遺跡において確認された刻目突帯短頭型は、浅鉢との対応関係から6段階に相当するものと考えられ、同型式の中では新相に相当するものである可能性を持つ。口縁部のみの資料が大半という制約の下で同型式を細分しうる分類基準を見出すことはできないが、庭ヶ淵遺跡出土の突帯文土器が6段階を構成する資料を多く含むという事実を提示することは可能である。

特筆されるものとして、北陸系土器（I 288・I 293・I 327）と孔列文土器（I72・I 281・I 318）の出土が挙げられる。北陸系土器は、北陸地方の長竹式土器に類似するが、胎土が異なるもので、整形・施文技法が伝播する過程で他地域において成立した土器が搬入されたものであることが想定される。孔列文土器は、高知県では他に居德遺跡での出土が知られ、大半は刻目突帯を貼付するものであるが、無刻目突帯のものも僅かに存在する。本遺跡出土資料にも両者がみられ、同時期の所産と考えられるこれらの孔列文土器を出土する様相は両遺跡に共通する。北陸系土器と孔列文土器の所属段階も他の縄文土器に準じ、6～8段階に属するものと考えられる。

弥生土器では、西見当式土器がある程度出土している事実にも注意する必要がある。なお、これらの縄文土器及び弥生土器を包含するV層及びVI層は、土質や堆積状況、土器の出土状況から有意な時期的差異を求めるることは困難であり、一体的な層と捉えることが適切と考えられる。

以上から、庭ヶ淵遺跡出土縄文土器の所属時期は、6・7段階に相当する時期、すなわち突帯文Ⅱ期における津島岡大式及び沢田式併行期、あるいはその移行期が主体であり、続く8段階以降に相当する時期、すなわち突帯文Ⅲ期にかけて密度を減じて存続し、さらに弥生時代前期の土器も少量存在するという時期的推移を想定することができる。

第2節 庭ヶ淵遺跡の位置付け

前節で検討した縄文土器の所属時期からみると、庭ヶ淵遺跡は突帯文Ⅱ期に成立するとともに間もなく最盛期を迎える。以降突帯文Ⅲ期に至り急速に衰退した後、弥生時代前期にかけて存続するという経過を辿ると想定される。出土遺物から最盛期に機能したとみられる遺構群があり、それらの廃絶・埋没後、さらに弥生時代前期にかけて何らかの土地利用がなされるが、遺構としての痕跡を残さずに廃絶、そしてそれらの時期の土器を含むV層及びVI層とした包含層が形成されたと考えられる。各遺構の埋土からの出土土器によると、最盛期前後に機能したと考えられる遺構は本調査区の多くを占めるとみられ、層位的に後世のものと考えられるII区SD1～8以外の遺構はほぼ当該時期に該当するものと考えられる。I区・II区において検出した遺構は重複を伴うものが少なく、多くの遺構は近い時期に存在あるいは同時併存した可能性を持つ。

庭ヶ淵遺跡において特筆される事例として、縄文時代晚期～弥生時代前期に所属すると考えられる竪穴建物跡1棟の検出が挙げられる。平面規模は4.90m、形状は円形を指向するが歪であり、隅

角と捉えられる箇所を有する多角形と認識される。床面は旧地形に即して南側の河道方向への下がり勾配を持ち、最大高低差約25cm、勾配約4%という人為活動において無視できない傾斜を持つ事実が存在する。ST1の埋土及び床面からの出土土器は弥生土器を少量含むものの大半が前節における7段階に属する縄文土器であり、弥生土器を含む総点数は323点（うち34点を図示）、総重量は2,484gである。この他、床面に設置された状況の被熱磧（40）や、石製品が少量出土している。

ST1出土土器の炭素14年代測定から得られた年代値は、 2630 ± 20 BP、 2540 ± 20 BPであり、SX7出土土器からは 2725 ± 20 BPが得られている（第IV章）。この結果は、前節の図38で示した、本遺跡出土の縄文土器の所属段階が第6・7段階を中心とするものであるという分析結果と概ね整合する。庭ヶ瀬遺跡においては、縄文時代晚期から弥生時代前期に至る時期のある程度の期間（炭素14年代値によれば200年程度）に継続的または断続的に人為活動が営まれ、その後半の時期に堅穴建物（ST1）が機能したという推移を描出することが可能である。

高知県内において縄文時代の堅穴建物跡の可能性があるものとして報告された遺構は、現在3例が知られる（遺構の確認状況や遺物の出土状況などから、確定的といえるものは松ノ木遺跡の1例である）。庭ヶ瀬遺跡の事例については、縄文時代晚期の末から弥生時代前期に至る時期に機能した可能性の高い堅穴建物として位置付けられる。

庭ヶ瀬遺跡は、県中東部の内陸域において、縄文土器の系譜を引く突帯文土器を使用していた集団が、西見当式をはじめとする弥生土器を次第に受容していく様相を示す、縄文時代から弥生時代の移行期に形成された小集落の一例として今後重要な遺跡である。

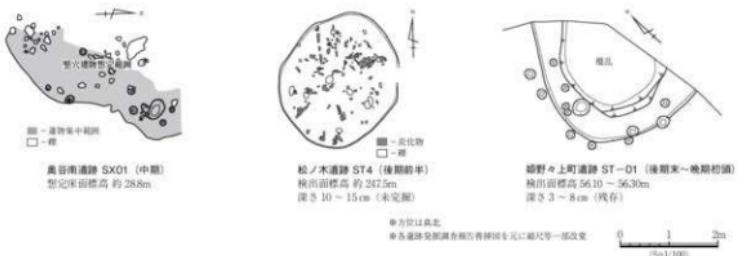


図39 高知県における縄文時代のある堅穴建物跡

註

- (1) 1965年に岡本健児氏によって発掘調査が行われた田村西見当遺跡において出土した速賀式土器の系譜を引く弥生土器で、同氏により入田I式よりも新しく大様式よりも古いものとして型式設定された。短く外反する口縁部と口唇に施す刻目が特徴的であり、古相の西見当I式と外腹斜線を施す新相の西見当II式がある。
- (2) 高知大学 人文社会学部 総合人間自然科学研究科 准教授（2024年2月現在）
- (3) 宮里修、2022、「南四国縄文晚期磨研鉢の分類と編年」『海南史学 第60号』、海南史学研究会、1-22頁
- (4) 宮里修、2022、「南四国縄文晚期深鉢の型式分類と組列」『高知考古学研究会 第6号』、高知考古学研究会、1-26頁

参考文献

- 山本哲也、1984、「姫野上町遺跡」「姫野上町・新土居宇津ヶ藪・永野遺跡」、栗山村教育委員会
 前田光雄、1992、「松ノ木遺跡Ⅲ」、本山村教育委員会
 松葉礼子・沙見真・岡田文男・大澤正巳・鈴木瑞穂・藤井正治、2003、「居跡遺跡群V」、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
 松村信博・山本純代、1999、「奥谷南遺跡Ⅰ」、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

遺物觀察表

凡例

1. 法量は土器を基準に口径（cm）、器高（cm）、底径（cm）で示し、土製品、石製品、鉄製品については、全長（cm）、全幅（cm）、全厚（cm）で示している。
2. ()内の数値は残存値を示している。なお、石製品については残存が不明確な点を考慮し、()を用いない。
3. 石製品、鉄製品については、表の後方にまとめて掲載している。
4. 色調は標準土色帖を基準としている。
5. 出土層位は、本文第Ⅲ章の図7・8等の層位に対応している。出土層位を判別し得なかった遺物については、「包含層」と記載している。
6. I区の出土遺物については、「宮地啓介 2012『高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡』香南市教育委員会」に遺物実測図を掲載している。また、遺物番号の接頭に「I」を付している。
7. 備考欄の「西見当式」は、断定できるものの「I式」または「II式」を付している。

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1	II区	ST1	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	①内面調整 ②外面調整 ③形状等 ②ナダ。③口縁部は直線的に上がり、上辺で外反する。 口縁端部は丸く収める。外面極細い斜位の縁目突 き。外側接合痕。	
2	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	オリーブ黒色 にぶい黄橙色 黒褐色	①ナダ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端 部外斜に削目。外面断面三角形の縁目突き。胎土微細ガ ラス多含。	
3	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナダ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。 外面断面台形の縁目突き。胎土微細ガラスを含む。	
4	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 黄灰色	①丁寧なナダ。②ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は丸 く収める。口縁部の形状がやや歪む。外面断面カマボコ形の 縁目突き。突きの上下に浅縫が巡る。胎土微細ガラスを含む。	
5	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナダ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収め る。外面断面三角形の縁目突き。内側接合痕。	
6	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	灰褐色 にぶい赤褐色	①粗いナダ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は 丸く収める。口縁部は幾やかな波状を呈する。外面断面カ マボコ形の縁目突き。内側接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
7	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナダ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。 口縁端部に削目。外面断面台形の縁目突き。内側接合痕。	
8	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色	①ナダ。②柔痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸 く収める。外面断面三角形の縁目突き。内側接合痕。	
9	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナダ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。 口縁端部に削目。外面断面カマボコ形の縁目突き。縁目 は半裁竹管により施す。内側接合痕。胎土微細ガラス多含。	
10	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	にぶい黄褐色 浅青褐色	①ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。 外面断面三角形の縁目突き。内側接合痕。胎土1.5mm程 度の内透色砂粒を含む。	
11	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にぶい橙色 灰色	①ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は細く仕上げる。 外面断面三角形の縁目突き。	
12	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黄褐色 浅黄褐色 黄褐色	①ナダ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。 外面断面三角形の縁目突き。外側接合痕。胎土微細 な白透色砂粒を含む。	
13	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	黒褐色 暗灰黄色 灰黄褐色	①ナダ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。 外面断面三角形の縁目突き。胎土微細ガラスを含む。	
14	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黒褐色 褐褐色 黄褐色	①②ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。 口縁端部に斜位の削目。外面断面三角形の縁目突き。	
15	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黒褐色 黒褐色 青褐色	①②ナダ。③口縁部は直線的に上がり、上辺はやや外反 する。口縁端部は丸く収める。口縁端部に削目。外面断 面三角形の縁目突き。	
16	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色	①②ナダ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収める。 肥厚面に削目。外面断面三角形の縁目突き。内側接合痕。	
17	タ	タ	縄文土器 深鉢	18.9	(5.7)	-	灰黄褐色 褐色	①②ナダ。③口縁部は丸く収める。肥厚面に削目。外面断 面三角形の縁目突き。	
18	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	棕色 にぶい橙色 *	①ヨコナダ。②ナダ。口縁部ヨコナダ。③口縁部は直線 的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の縁目 突き。	
19	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色	①ナダ。②ヨコナダ。③口縁部は丸く収め、外側に接 合する。外面断面三角形の縁目突き。	
20	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(5.0)	-	オリーブ黒色 黄灰色	①ナダ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面 口縁部に断面三角形の縁目突き。突き上辺に刺突孔の削 目を付加する。内側接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
21	II区	ST1	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	浅黄色 に赤い黄色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。 外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
22	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	に赤い橙色 灰黄褐色 黄色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。 外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土 1mm程度の白透色砂粒を含む。	
23	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.1)	-	黒褐色 * 暗灰黄色	①ヘラミガキ。②ヘラケズリ・ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で内側に屈折して口縁部に向かう。 内縫接合痕。胎土微細ガラス多含。	
24	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.4)	-	黒褐色 灰黄褐色 灰色	①②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で屈曲して上方に上がる。内縫接合痕。	
25	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.5)	-	黄色 に赤い黄褐色 褐色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部上位で段をなし、口縁部は直線的に内上方に上がる。段の上方に1条丸縁が造る。 胎土微細な白色砂粒を含む。	
26	*	*	弥生土器 壺	-	(3.6)	-	灰黄色 * 黄色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收めて外側に捕む。口縁端部に細い縦状の刻目。内縫接合痕。	
27	*	*	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	橙色 明黄褐色 に赤い橙色	①ヘラミガキ。②ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。外縫接合痕。	
28	*	*	弥生土器 壺	-	(2.0)	-	に赤い黄褐色 灰色 灰白色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部上位は緩やかに内湾する。 外面胴部に残存部で3条の沈継が認められる。	
29	*	*	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	に赤い黄褐色 橙色 浅黄褐色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面胴部に山形文を施す。	
30	*	*	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	に赤い黄褐色 に赤い黄色 灰白色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
31	*	ST1 - P19	弥生土器 壺	-	(1.9)	-	橙色 明黄褐色 *	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は外反し、丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
32	*	*	弥生土器 壺	-	(1.8)	-	に赤い黄褐色 * *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
33	*	ST1	弥生土器 壺	-	(8.3)	-	褐灰色 に赤い黄褐色 灰色	①ヘラケズリ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。 ③胴部の破片。外縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
34	*	*	弥生土器 鉢	-	(2.5)	-	橙色 に赤い黄褐色 *	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は中央がやや凹んだ面をなす。口縁端部外縁に刻目。底部の刻目は口縁部下位にまで及ぶ。	
41	*	SK1	弥生土器 壺か	-	(1.2)	-	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色 赤色	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く收める。 口縁部の形状はやや重む。胎土微細ガラスを含む。	
42	*	SD2	弥生土器 壺	-	(2.4)	-	に赤い黄褐色 * 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、外側に折り返して僅かに肥厚させる。口縁端部は丸く收める。口縁端部に浅い縦状の刻目。外縫接合痕。	
43	*	SX1	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	浅黄褐色 に赤い黄褐色 褐色	①ナデ。②細いナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。外面斜面三角形の刻目突帯。内縫接合痕。	
44	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	に赤い黄褐色 暗灰黄色 黄色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。 口縁端部に浅く幅広い刻目。外面斜面三角形の刻目突帯。内縫接合痕。胎土 1mm程度の白透色砂粒を含む。	
45	*	*	弥生土器 壺	-	(4.0)	-	浅褐色 黒褐色 *	①ヘラミガキ。②ナデ。③胴部は内湾する。外面に赤色顔料付着。	
46	*	*	弥生土器 壺	-	(3.2)	8.0	浅黄褐色 に赤い橙色 黄色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。底部ナデ。③胎土 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外表面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
47	II区	SX1	土製品 不明	全長 (4.5)	全幅 (3.0)	全厚 0.7	にぶい黄橙色 * 浅黄橙色	①②ナデ、ユビオサエ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。円盤の面は僅かに弯曲する。	
48	タ	SX2	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	黒褐色 暗灰黄色 黒褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。口縁端部に刻目。外表面断面カマボコ形の刻目突帯。胎土微細ガラス多含。	
49	タ	SX3	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色 オリーブ灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く收める。口縁端部に刻目。外表面断面三角形の刻目突帯。	
50	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	褐色 褐灰色	①②ナデ。③胴部上位の破片。外表面断面三角形の刻目突帯。刻目は高く隆起する突帯から器表付近まで深く施す。胎土微細ガラスを含む。	
51	タ	SX4	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 黒褐色 灰褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。外表面断面三角形の突帯。胎土微細ガラス多含。	
53	タ	P15	弥生土器 甕か	-	(2.9)	-	灰白色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。外表面断面に断面三角形の刻目突帯。	
54	タ	P16	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 *	①ナデ。②ハケ・ナデ、ユビオサエ。③口縁部は直線的に上がり。口縁端部外縁が削る面をなし、下端を拡張する。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
55	タ	V層	縄文土器 深鉢	-	(5.1)	-	浅黄色 暗灰黄色 黄灰色	①ナデ、ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗く仕上げる。外表面断面に刻目。内縫接合痕。	
56	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	黄褐色 オリーブ褐色 暗灰黄色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く收める。内縫接合痕。	
57	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外表面断面三角形の刻目突帯。突帯の下に沈殿窓。	
58	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	暗灰黄色 * 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は尖気味に丸く收める。外表面断面三角形の刻目突帯を2段階付する。内縫接合痕。	
59	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は粗放な面をなし、外側にやや拡張する。口縁端部に刻目。外表面断面三角形の刻目突帯。	
60	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(4.9)	-	にぶい黄橙色 オリーブ黑色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。外表面断面三角形の刻目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
61	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい褐色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	①ナデ。②胴部上位ハケ。口縁部ナデ。③外表面断面三角形の刻目突帯。刻目は摩耗により不明瞭。胎土微細な白色粘土を含む。	
62	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄橙色 * 灰黄褐色	①空妙いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く收める。外表面断面三角形の刻目突帯。内縫接合痕。	
63	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄橙色 * 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗く仕上げる。外表面断面三角形の刻目突帯。	
64	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	灰色 * *	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く收める。外表面断面三角形の刻目突帯。	
65	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(7.5)	-	灰黄色 浅黄色 黄褐色	①ナデ。②粗いナデ。③胴部はやや外反する。外表面断面カマボコ形の刻目突帯。刻目は線状に粗く施す。内縫接合痕が明瞭にみられる。	
66	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.4)	-	黒褐色 にぶい黄橙色 黄褐色	①②ナデ。③口縁端部は丸く收め、やや歪む。外表面断面に断面三角形の刻目突帯。口縁部上位に刺突状の刻目。	
67	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄橙色 * *	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなす。面内に3mm程度の矩形の割込みを施す。外表面断面に断面三角形の刻目突帯。内縫接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
68	II区	V層	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 * *	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。 * *	
69	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	灰白色 橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部はやや粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
70	*	*	縄文土器 壺	18.4	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。内側接合痕。胎土微細な白色砂粒及び鐵継ガラス多含。	変容型
71	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	灰黃褐色 * *	①②丁寧なナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。内面口縁部に明瞭な凹彎が1条ある。胎土0.5mmの角閃石及び微細な白色砂粒を含む。	
72	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰黄色	①②ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に上がり、端部はやや粗放に丸く収める。波状口縁とみられる。口縁端部に刻目。	
73	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.6)	-	にぶい黄褐色 明赤褐色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位～口縁部は内溝し、端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁をなすものとみられる。外面口縁部に凹彎状の縫が1条ある。胎土微細ガラスを含む。	
74	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(6.0)	-	灰黃褐色 にぶい黄褐色 灰黃褐色	①ナデ。②ナデ～ヘラミガキ。③胴部上位は内溝する。内側接合痕。胎土2mmの大白透色砂粒を含む。微細な白色砂粒多含。	
75	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.1)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は内溝して上方に立ち上がり、端部は丸く収める。胎土0.5mmの大白透色砂粒を含む。内側接合痕。胎土微細な白色砂粒多含。	
76	*	*	弥生土器 壺	-	(3.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 *	①ナデ・ユビオサエ。②丁寧なナデ。③胴部～壺部は僅に外反する。外面残存部に3条の沈線が巡る。胎土0.5mmの大角閃石及び鐵継ガラスを含む。	
77	*	*	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色	①ナデ。②丁寧なナデ。③胴部上位は内溝して上がる。外面胴部に2条の沈線が巡る。外側接合痕。	
78	*	*	弥生土器 壺	-	(1.8)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁部は丸く収める。外面口縁部に刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
79	*	*	弥生土器 壺	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 灰黃褐色 灰色	①②ハケ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	
80	*	*	弥生土器 壺	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 *	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目を密に施す。	
81	*	*	弥生土器 壺	-	(1.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 *	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目を密に施す。	
82	*	*	弥生土器 壺	-	(1.2)	-	橙色 にぶい黄褐色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	
83	*	*	弥生土器 壺	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 * *	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に沈線状の縫が1条ある。口縁端部外縁に複数の刻目。	
84	*	*	弥生土器 壺	-	(1.3)	-	にぶい黄褐色 *	①②ナデ。③口縁部は僅に外反して開き、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	
85	*	*	弥生土器 壺	-	(2.4)	-	暗灰黄色 灰黄色 青灰色	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
86	*	*	弥生土器 壺か	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②丁寧なナデ。③胴部は緩やかなS字状のカーブを描く。外面断面三角形の刻目突帯。内側接合痕。	
87	*	*	弥生土器 壺	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①②ナデ。③外面胴部に6条1単位の垂下条線が認められる。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外表面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
88	II区	V層	弥生土器 壺	-	(3.5)	9.1	灰白色 浅黄褐色 黄灰色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③平底。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
89	ヶ	ヶ	弥生土器 壺か甕	-	(3.7)	9.0	褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色	①ナデ。底部指顔圧痕。②ハケ。③平底。胴部下位は外上方に立ち上がる。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。微細な白色砂粒多含。	
90	ヶ	ヶ	弥生土器 壺	-	(4.1)	8.2	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①ナデ。工具痕が残る。②ハケ・胴部下位ユビオサエ。③平底。底部外縁は棱をなす。胴部は内湾気味に上がる。	
91	ヶ	ヶ	弥生土器 壺	-	(4.5)	8.6	にぶい橙色 * *	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。底部は厚みを持つ。	
92	ヶ	*	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色・黃褐色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。	
93	*	*	土器器皿か杯	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 * *	①②回転ナデ。③体部～口縁部は内溝し、口縁端部は丸く收める。胎土微細ガラスを含む。	
94	*	*	土器器皿か碗	-	(2.1)	-	淡黄褐色 浅黄褐色 *	①②ナデ。③体部は内湾気味に上がり、口縁部は外方に開く。口縁端部は丸く收め、玉縁状に肥厚させる。	
95	ヶ	*	土器器皿 杯	-	(1.2)	8.4	浅黄褐色 * *	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は棱をなす。胎土微細ガラスを含む。	
96	ヶ	*	土器器皿 杯	-	(1.7)	7.6	にぶい橙色 * 浅黄褐色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は内溝して立ち上がる。底部回転系切り重。胎土微細ガラスを含む。	
97	ヶ	*	土器器皿 杯	-	(1.7)	8.2	にぶい黄褐色 * 浅黄褐色	①②回転ナデ。③平底。体部は内湾気味に立ち上がる。底部回転系切り重。胎土微細ガラスを含む。	
98	ヶ	*	土器器皿 杯	-	(1.4)	8.8	にぶい橙色 褐色 *	①②ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は直線的に立ち上がる。底部へラ切り。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
99	ヶ	*	土器器皿 碗	-	(1.0)	6.4	浅黄褐色 * *	①②ナデ。③輪高台。断面台形の高台を貼付する。接地面は凹面をなす。高台外面はユビオサエにより凹む。胎土はやや密。	
100	ヶ	*	土器器皿 碗	-	(2.1)	6.6	浅黄褐色 * *	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に短く開き、端部は面をなす。体部は内溝して立ち上がる。胎土微細な褐色砂粒を含む。	
101	ヶ	*	土器器皿 羽釜	-	(1.9)	-	褐色 * にぶい黄褐色	①②ナデ。③羽釜は水平に近い角度で伸び、端部は丸みを帯びた面をなす。	
102	ヶ	*	須恵器 壺か甕	-	(5.6)	-	灰白色 * *	①②回転ナデ。③胴部上位で棱をなす。頭部はやや外傾して上方に上がる。外縁自然輪が薄くみられる。焼成堅被。	
103	*	*	須恵器 壺	-	(3.1)	-	灰色 にぶい褐色	①②回転ナデ。③丸底。胴部は内溝して立ち上がる。焼成良好堅被。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
104	*	*	須恵器 壺	-	(5.4)	-	灰黄褐色 黄灰色	①ナデ。②タキ。③胴部の破片。胎土1.5mm大までの黑色砂粒多含。	
105	*	*	須恵器 壺	-	(5.2)	-	灰黄褐色 灰褐色 灰白色	①ナデ。②平行タキ。③胴部は内溝する。胎土2mm大までの黄色砂粒多含。形質の類似する須恵器破片が添着する。	
106	*	*	須恵器 捏ね	-	(3.0)	-	黄灰色 * 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部は内湾気味に上がり、端部は中央がやや凹む面をなす。焼成良好堅被。胎土はやや密。	
107	ヶ	*	須恵器 杯	-	(3.3)	-	灰黄色 * *	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁端部は丸く收め、外縁で棱をなす。胎土は密。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
108	II区	V層	須恵器 杯	15.8	(2.1)	-	灰白色 灰色 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりはやや内傾して直線的に上がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に伸び、端部は丸く収めて先端は棱をなす。	
109	*	*	須恵器 杯	-	(2.0)	-	灰色 * *	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは外反気味に立ち上がり、端部は細く仕上げる。受部は僅かに上方に伸び、端部は丸く収める。	
110	*	*	須恵器 椀	-	(1.5)	6.8	灰白色 * *	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部には丸みを帯びた面をなす。	8世紀中頃か
111	*	*	土師器 杯	12.2	(3.6)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 *	①②回転ナデ。③体部は外湾気味に上がり、口縁部は直線的に外方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
112	*	*	瓦器 椀	-	(1.9)	-	灰オリーブ色 灰色 灰オリーブ色	①②ナデ。③体部は内湾気味に上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
113	*	*	瓦器 椀	-	(1.4)	6.2	オリーブ黒色 灰オリーブ色 浅黄褐色	①②ナデ。③輪高台。断面三角形の高台を貼付する。体部は内湾気味に立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
114	*	*	陶器 瓶	-	(7.1)	-	灰色 暗灰黃色 灰色	①②回転ナデ。③胴部下位は内湾して上がる。内傾接合部。胎土微細な白色砂粒多含。	
120	*	V・VI層	繩文土器 深鉢	-	(3.0)	-	橙色 * 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
121	*	*	繩文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
122	*	*	繩文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい橙色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合部。	
123	*	*	繩文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合部。	
124	*	*	繩文土器 深鉢	-	(3.5)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部にかけて直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合部。	
125	*	*	繩文土器 深鉢	-	(3.1)	-	灰白色 * 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
126	*	*	繩文土器 深鉢	-	(1.7)	-	灰色 浅黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外方に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合部。	
127	*	*	繩文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい橙色 * にぶい深褐色 にぶい黄褐色	①ナデ・ユビロサエ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。胎土2mm程度の白色砂粒を含む。	
128	*	*	繩文土器 壺	-	(3.2)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ヘタミガキ。③外面胴部上位で段をなし、内傾して口縁部に向かう。胎土微細ガラスを含む。	安窓窓
129	*	*	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 灰色	①②口縁部ヨコナデ。③颈部が屈曲し、口縁部は直線的に外方に上がる。口縁端部は面をなす。口縁端部に刻目。外傾接合部。胎土微細ガラスを含む。	
130	*	*	弥生土器 壺	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄褐色	①ヨコナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合部。	西見当式
131	*	*	弥生土器 壺	-	(1.5)	-	橙色 にぶい橙色 暗灰黃色 灰白色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	
132	*	*	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰白色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合部。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
133	II区	V・VI層	弥生土器 甕	-	(1.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②コナデ。③口縁部はやや外反し、端部は外傾する面をなす。口縁端部に削目。	
134	タ	タ	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	浅黄色 +	①②ナデ。③口縁部は直線的に上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に削目。外傾接合痕。	
135	タ	タ	弥生土器 甕	-	(4.1)	-	暗灰黄色 +	①②ナデ。③胴部は緩やかに内消する。外面胴部は僅かな段をなす。外傾接合痕。外面に煤付着。	
136	タ	タ	弥生土器 甕	-	(3.6)	102	にぶい橙色 +	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。⑤平底。胴部下位は直線的に上がる。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
137	タ	タ	土師器 椀か	-	(3.1)	-	灰黃褐色 +	①外傾ナデ。③体部内湾気味に上がり、角度を変えて口縁部は外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細なガラスを含む。	
140	タ	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	黃灰色 暗灰黄色 青灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部の面内に削目。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
141	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	①②コナデ。③口縁部上位で緩やかに外方に屈曲し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外傾接合痕。	
142	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 +	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。内傾接合痕。	
143	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は面をなし、外側にやや抵張る。外面断面三角形の削目突起。外傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
144	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	褐灰色 灰白色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部はやや尖気味に丸く収める。外面断面カマボコ形の削目突起。内傾接合痕。	
145	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	灰黃褐色 +	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は丸く収め、外側を肥厚させる。口縁端部に押出による削み。外面断面カマボコ形の削目突起。	
146	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 +	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の削目突起。胎土2倍大の白透色砂粒を若干含む。	
147	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	灰白色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は丸みを帯びた面をなし、外側を僅かに抵張する。外面断面三角形の削目突起。内傾接合痕。	
148	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 +	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は面をなし、外側をやや肥厚させる。口縁端部に2段の仕状の削目。外面断面三角形の削目突起。	
149	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄橙色 +	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外側微隆起による削目突起。	
150	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい赤褐色 明赤褐色 赤褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突起。内傾接合痕。	
151	タ	タ	縄文土器 深鉢	29.8	(4.3)	-	黒色 にぶい黄橙色 黑褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外面断面台形の削目突起。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
152	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	橙色 +	①②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に削目。外面断面三角形の削目突起。内傾接合痕。	
153	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①柔軟。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。内傾接合痕。外面断面三角形の削目突起。	
154	タ	タ	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 褐色 にぶい黄橙色	①柔軟。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。内傾接合痕。外面断面三角形の削目突起。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
155	II区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(4.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	①②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。 外表面断面薄い台形の割目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
156	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	にぶい褐色 *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外表面断面三角形の割目突帯。内傾接合痕。	
157	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	にぶい赤褐色 褐灰色 にぶい褐色	①粗いナデ。②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外表面断面台形の割目突帯。内傾接合痕。外表面に擦り着。胎土微細ガラスを含む。	
158	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	浅黃色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外表面断面薄い台形の割目突帯。内傾接合痕。	
159	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	浅黃褐色 *	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外表面断面三角形の割目突帯。内傾接合痕。	
160	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	褐灰色 にぶい褐色 灰青褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外表面断面薄い台形の割目突帯。	
161	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい褐色 にぶい赤褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外表面断面カマゴコロの割目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
162	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	にぶい黄褐色 *	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外表面断面三角形の割目突帯。	
163	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	にぶい橙色 *	①②ナデ。③胴部上位～口縁部に向て直線的に上がる。外表面断面三角形の割目突帯。	
164	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰黃褐色 *	①②ナデ。③胴部上位から内傾して口縁部に向かう。外表面断面三角形の割目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
165	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 浅黃褐色 灰色	①②ナデ。③外表面断面三角形の割目突帯。	
166	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	にぶい赤褐色 明赤褐色 灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや外反して口縁部に向かう。外表面断面台形の割目突帯。	
167	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	褐色 *	①②丁寧なナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。内面に沈線状の継がり1条ある。外表面断面三角形の割目突帯。内傾接合痕。	
168	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	黄褐色 灰白色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反する。外表面断面三角形の割目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
169	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.3)	-	黒褐色 褐灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③外表面断面三角形の割目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
170	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい橙色 *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外表面断面に断面三角形の割目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
171	*	*	縄文土器 深鉢	-	(6.2)	-	にぶい黄褐色 *	①ナデ。②粗いナデ。③胴部上位はやや内傾して上がる。内傾接合痕。胎土1mmの大の白透色砂粒を含む。	
172	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	褐灰色 にぶい黄褐色 褐灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外表面断面三角形の無割目突帯。突帯上半に外側からの焼成前穿孔による孔列文を配する。	孔列文 土器
173	*	*	縄文土器 壺	-	(4.9)	-	灰黃褐色 褐灰色 にぶい黄褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外方に屈曲し、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	変容壺
174	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 *	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈折し、口縁部は矧く外反する。口縁端部は丸く収める。内面屈折部に凹凸。内面口縁部に赤色顔料が薄く付着する。胎土角石及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
175	II区	VI層	縄文土器 浅鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①ヘラミガキ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。波状口縁。内面口縁部に深い凹線状の継が1条巡る。内縫接合痕。	
176	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	黒褐色 * *	①ヘラミガキ。③胴部上位で屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く收める。波状口縁。口縁部外側に1条沈線。内縫接合痕。	
177	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	褐灰色 * 灰黄褐色	①丁寧なナデ。②ヘラミガキ。③口縁部はやや外反する。波状口縁。内面口縁部に2条沈線。胎土微細ガラス多含。	東日本系
178	ク	ク	縄文土器 壺	-	(2.4)	-	にぶい褐色 * *	①ヘラミガキ。③胴部上位で内縫して上がり、口縁部は上方に上がり。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。胎土金雲母片を含む。微細ガラス多含。	無頭蓋
179	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	灰色 黑色	①ヘラミガキ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く收める。波状口縁とみられる。外面1条沈線。口縁端付近に穿孔か。胎土微細ガラスを含む。	
180	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(4.3)	-	褐灰色 にぶい褐色 暗灰黄色	①ヘラミガキ。②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、口縁部にかけて内縫して屈曲する。内縫接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
181	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 * 灰色	①ヘラミガキ。②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で内縫して口縁部に向かう。内縫接合痕。	
182	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	褐色 * 暗灰黄色	①ヘラミガキ。③胴部上位で段をなして口縁部は外上方に上がる。	
183	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.0)	-	灰黄褐色 にぶい橙色 暗灰黄色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部は内溝する。外面腹縁部とみられる継ぎの突起を貼付する。胎土微細ガラス多含。	東日本系 腹縁部(沢田式)
184	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	灰褐色 灰黄褐色 *	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部はやや内溝する。外面窓状の凹部内にヘラによる斜行沈線文。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	東日本系
185	ク	ク	縄文土器 浅鉢	-	(1.2)	7.4	黒褐色 橙色 黑褐色	①ヘラミガキ。②ナデ。③平底。外底底部は凸凹を呈する。胎土微細ガラスを含む。	
186	ク	ク	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	橙色 * にぶい黄褐色	①ナデ。③外面微隆起による割目突帯。突帯の中央及び上下に計3条の沈線が巡る。	
187	ク	ク	弥生土器 壺	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 黄褐色	①ナデ。③胴部上位から外反して脇部に至る。脇部脇部規則に横様の沈線が1条巡る。脇部に複数山形文とみられる沈線を施す。	
188	ク	ク	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	浅黄色 * 灰褐色	①ナデ。③胴部上位は内溝する。外面ヘラによる葉脈状の沈線を施す。胎土微細ガラスを含む。	
189	ク	ク	弥生土器 壺	19.2	(1.6)	-	橙色 にぶい橙色 灰褐色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は擴ぐ外反し、端部は丸く收める。口縁端部に刻目。胎土1mmの大白透砂粒を含む。	西見当式
190	ク	ク	弥生土器 壺	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄褐色	①②ハケ・ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。口縁端部に刻目。	
191	ク	ク	弥生土器 壺	-	(1.7)	-	浅黄色 * *	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外縫接合痕。	
192	ク	ク	弥生土器 壺	-	(1.7)	-	橙色 * 暗灰黄色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。口縁端部外縁に刻目。	
193	ク	ク	弥生土器 壺	-	(1.3)	-	暗灰黄色 * にぶい黄色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は指頭圧痕。④口縁部は外反する。口縁端部は外傾する面をなし、下端を強張る。面内に粗くナメた痕。口縁端部内縁及び外縁に刻目。	
194	ク	ク	弥生土器 壺	-	(1.7)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 黄褐色	①ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く收める。口縁端部外縁に刻目。外縫接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
195	II区	VI層	弥生土器 壺	-	(16)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に削目。外縫接合痕。	
196	*	*	弥生土器 壺	-	(15)	-	にぶい黄橙色 橙色 灰黃褐色	①②ナデ。③外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
197	*	*	弥生土器 壺	-	(18)	5.2	黒褐色 にぶい黄橙色	①ナデ。工具痕が認められる。②ナデ。③突出する平底。胎土 0.5mm 大の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
198	*	*	弥生土器 壺	-	(12)	9.6	浅黄橙色 黄色	①②ナデ。③平底。底部外縁はやや丸みを帯びる。	
199	*	*	弥生土器 壺か	-	(23)	8.2	灰黃褐色 浅黄橙色 褐灰色／赤橙色	①②ナデ。③平底。外面底部は接なし、胴部は内清気味に上がる。	
200	*	*	弥生土器 壺	-	(3.8)	8.4	灰黃褐色 にぶい黄橙色 灰黃褐色	①ナデ。②ハケ。底部へナデ。③平底。胴部は内清気味に上がる。	
201	*	*	弥生土器 鉢	-	(24)	-	にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
202	*	*	土師器 杯	15.2	(1.6)	-	赤褐色 にぶい褐色 橙色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く收める。内面口縁部に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
212	*	包含層	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收めて外縁でやや接をなす。外縫接合痕。	
213	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	にぶい黄橙色 暗灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く仕上げる。口縁端部外縁に削目。外面断面台形の削目突帯。	
214	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。外縫断面カマボコ形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
215	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁端部外縁に削目。外面断面三角形の削目突帯。	
216	*	*	縄文土器 深鉢	-	(8.0)	-	にぶい黄橙色 黄灰色	①柔痕。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。口縁端部に押圧削み。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
217	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	浅黄橙色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。外面断面台形の削目突帯。	
218	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黃褐色 黄灰色	①②口縁部コナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
219	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	灰色 にぶい褐色 灰色	①②ナデ。③口縲上位はやや外反して口縲部に向かう。外面断面カマボコ形の削目突帯。	
220	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	褐色 にぶい橙色 灰色	①②ナデ。③口縲部はやや外反する。内面に施墨が 1 条ある。外面断面三角形の削目突帯。外縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
221	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縲上位はやや外反して口縲部に向かう。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土 1mm 程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
222	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄橙色 オリーブ黒色	①②ナデ。③胴部上位で屈曲し、内縫して口縲部に向かう。外面断面三角形の削目突帯。	
223	*	*	縄文土器 浅鉢	21.1	(3.0)	-	褐灰色 灰黃褐色 褐オーライブ色	①②ヘラミガキ。③口縲部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く收める。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外表面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
224	II区	包含層	弦生土器 壺	-	(22)	10.6	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色・橙色	①ナデ。工具痕が認められる。②ナデ。③やや突出する平底。胎土微細ガラスを含む。	
225	タ	*	土器器 杯	-	(15)	7.2	浅黄褐色 *	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③湾い円盤状の底部。体部は直線的に立ち上がる。胎土微細な褐色砂粒を含む。	
226	タ	*	土器器 杯	-	(1.6)	6.8	灰白色 *	①摩耗。②回転ナデ。③柱状高台風の底部。体部は内消して立ち上がる。	
227	タ	*	土器器 杯	-	(1.7)	6.5	浅黄褐色 黄褐色 淡黄色	①②ナデ。③低い柱状高台風の底部。底部切り離しは摩耗により不明瞭。	
228	*	*	土器器 椀	-	(1.9)	6.6	淡黄色 *	①摩耗。③低い柱状高台風の底部。高台外面はユビオサエにより凹凸をなす。体部は内消して立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
229	*	*	土器器 椀	-	(1.7)	6.2	灰白色 *	①②回転ナデ。③輪高台。高台は垂直に湾い角度で下がり、端部は面をなす。画面に沈縫状の縫1条を有する。体部は内消して立ち上がる。	
230	*	*	土器器 羽釜	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 *	①ナデ。③脚部は下部で短く上がり、端部は中央がやや凹む面をなす。胎土微細な褐色及び白色の砂粒を含む。脚部径24.5cm。	
231	*	*	須恵器 甕	-	(8.3)	-	灰色 *	①同心円状当具痕。②タキ後ハケ。③胴部の破片。胎土微細な白色砂粒を含む。	
232	タ	*	須恵器 高杯	-	(2.3)	-	灰色 *	①②回転ナデ。③脚部はハの字状に開く。脚部杯部境界は丸みを帯びて屈曲する。杯部は直線的に上がる。	
233	タ	*	須恵器 碗	15.4	(1.9)	-	灰白色 *	①②回転ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く取め、外縁はやや棱をなす。	
234	タ	*	青磁 碗	-	(2.2)	-	灰白色 *	④内面体部下位に沈縫が1条ある。内面施釉。外面体部下位及び高台露胎。精良な胎土。	
235	タ	表様	繩文土器 深鉢	-	(3.8)	-	灰白色 *	①ナデ。②ナデ。③口縁部ヨコナデ。④口縁部はやや外反し、端部は面をなす。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合帯。	
236	タ	*	繩文土器 深鉢	-	(3.2)	-	にぶい黄褐色 *	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く取める。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合帯。胎土白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
237	タ	*	繩文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなしで外縁をやや抵張する。口縁端部に割目。外面断面カマボコの割目突帯。	
238	タ	*	繩文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰白色 *	①ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く取める。外面断面カマボコ形の割目突帯。	
239	*	*	繩文土器 深鉢	-	(3.5)	-	橙色 灰オリーブ色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く取める。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合帯。	
240	*	*	繩文土器 深鉢	23.0	(3.9)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は外反する。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
241	*	*	繩文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	灰黄褐色 黒褐色 灰黄色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈折して口縁部は内縫して上がる。口縁部上位で垂直方向に屈曲して上がり、端部は丸く取める。外面口縁部に残存部で2条の沈縫が遺る。	
242	*	*	繩文土器 浅鉢	-	(2.7)	-	灰黄褐色 黒褐色 暗灰色	①ヘラミガキ。②ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で屈折して口縁部は外上方に上がる。	
243	タ	*	繩文土器 浅鉢	-	(2.1)	-	褐灰色 黄灰色 にぶい黄褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位～口縁部に向け外反する。口縁部付近に補修孔とみられる焼成後空孔。胎土金雲母片、0.5mm程度の白透明砂粒、微細ガラスを含む。	瓶入品

II区 遺物観察表 244 ~ 246

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
244	II区	表探	須恵器 杯	-	(2.3)	-	灰白色 * *	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは内傾して上がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に短く伸び、端部は丸く收める。	
245	*	*	須恵器 捏鉢	-	(4.8)	-	灰色 * 明青灰色	①左回転ナデ。③胴部上位は直線的に上がり、屈曲して口縁部は上方に上がる。口縁端部は丸く收める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
246	*	*	土製品 不明	全長 (1.4)	全幅 (1.3)	全厚 0.4	橙色 * *	①②ナデ。③外面にマス形の模様を有する。器面は僅かに外反する。稍良な胎土。	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量(cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
35	II区	ST1	楔形石器	1.7	1.5	0.7	剥片を利用する。断面は凸レンズ状を呈する。表面と裏面で直交する軸方向の対向剥離が認められる。チャート製。重量 2g	
36	◆	◆	石錐	3.6	3.0	0.6	敲打により獲得した剥片を利用する。表面に対向剥離が認められる。チャート製。重量 4g	
37	◆	◆	石錐	4.0	1.6	1.7	断面三角形状の円錐を素材とする。両端部に糸を巻き付けた痕跡が残る。褐色に発色する。粗粒砂岩製。重量 9g	
38	◆	◆	叩石	6.4	5.8	3.8	円錐を素材とする。一端が面をなす。面の外縁に被熱赤変が認められる。片面はやや凹面をなし。細かい凹凸がみられる。側縁に敲打痕が残る。重量 171g	
39	◆	◆	台石	18.0	15.3	7.4	円錐を台石として利用したものと考えられる。表面は凸状に丸みを帯び、裏面はやや平坦面をなす。裏面に敲打痕が残る。粗粒砂岩製。重量 3543g	
40	◆	◆	被熱礫	31.0	29.6	14.2	準円錐。両側面に削口がみられる。原錐面の外縁付近を中心に被熱赤変が認められる。粗粒砂岩製。重量約 16kg	
52	◆	SX4	叩石	16.9	20.0	5.3	扁平な円錐を素材とする。表面に敲打痕が認められる。側面に敲打による凹みがみられる。表面の側縁及び削口付近に被熱赤変が認められる。中粒砂岩製。重量 2452g	
115	◆	V層	石錐	1.4	1.4	0.2	押圧剥片を用いる。五角形状を呈する。基部は四角を呈する。先端の一部を欠く。両側面の輪郭は曲線的。サヌカイト製。重量 1g 未満	
116	◆	◆	不明	2.7	0.8	0.4	二次加工が認められる剥片。サヌカイト製。重量 1g	
117	◆	◆	不明	2.9	1.1	0.9	角柱状を呈し、端部は丸みを帯びる。一端は欠損する。端部に細かい敲打痕が認められ、僅かに赤色顔料の痕跡が残る。細粒砂岩製。業理が観察される。重量 4g	
118	◆	◆	石斧	7.6	2.6	1.0	擬巻状を呈し、刃部に向かって幅を減じる。両刃を呈する。基部を面取りする。両側縁は丸みを帯び、面取りが明瞭でない。重量 33g	
119	◆	◆	不明	9.0	6.1	1.6	板状の準円錐を素材とする石器か。表面及び側面に赤色顔料が明瞭に残る。泥岩製。重量 109g	
138	◆	V・VI層	石斧か	6.8	1.2	0.6	棒状を呈する。細い基部から刃部に向けて幅を増す。基部は面取りする。刃部は欠損するとみられる。結晶片岩製。重量 8g	
139	◆	◆	搔器	9.3	5.1	1.2	敲打により分割した扁平な錐を素材とする。刃部の片面には使用によるとみられる剥離が認められる。頁岩製。重量 80g	
203	◆	VI層	石錐	1.7	1.3	0.2	剥片を加工する。先端の一部を欠く。風化が著しい。サヌカイト製。重量 1g 未満	
204	◆	◆	楔形石器	2.2	2.0	0.7	剥片を利用する。表面と裏面で直交する軸方向の対向剥離が認められる。チャート製。重量 3g	
205	◆	◆	石錐	3.3	0.7	0.7	棒状の剥片。両面から敲打を施す。サヌカイト製。重量 1g	
206	◆	◆	搔器	7.5	2.3	1.1	基部付近の両側縁に抉入を形成する。片側の端部に使用によるとみられる微細剥離が連続して認められる。サヌカイト製。重量 15g	
207	◆	◆	叩石	11.4	7.0	5.6	扁平な円錐を素材とする。約 1/2 は欠損する。表裏面の中央付近及び両側縁に敲打痕が残る。片側の側縁に赤色顔料の痕跡が残る。中粒砂岩製。重量 601g	
208	◆	◆	叩石	11.0	6.3	4.9	扁平な円錐を素材とする。約 1/2 は欠損する。端部に敲打痕が残る。中～粗粒砂岩製。重量 432g	

II区 遺物観察表 石製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量(cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
209	II区	VI層	叩石	11.6	6.5	5.4	扁平な円錐を素材とする。約1/2は欠損する。表面の中央付近に敲打痕が残る。中粒砂岩製。重量 499g	
210	*	*	叩石	9.6	5.9	3.5	敲打により削れる。表面に敲打痕及び擦痕、側縁に敲打痕が認められる。中粒砂岩製。重量 272g	
211	*	*	叩石	10.7	10.2	5.1	円錐を素材とする。表面の中央が凹む。側面の全周に敲打痕が明瞭に残る。繰り返される敲打により周縁がつぶれて頭をなす。表面に僅かに擦痕が残る。砂岩製。重量 789g	
247	*	表探	台石	17.6	11.3	8.1	円錐を素材とする。表面は丸みを帯びた枝をなし、裏面は平坦面をなす。平坦面及び側縁部に敲打痕が残る。粗粒砂岩製。重量 2221g	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 1 TR2	II層	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 灰黃褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は外傾する面をなす。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。		
I 2 *	*	弥生土器 ニコアラ型	6.0	(3.0)	-	褐色 にぶい橙色 橙色	①丁寧なナデ。②ヘラガキ。③虚形の土器。頭部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く収める。		
I 3 *	*	土師質土器 椀	-	(1.7)	4.6	浅黄橙色 * *	①②削輪ナデ。③円錐状高台。底部切り離しは摩耗により不明瞭。		
I 4 *	*	土師質土器 椀	-	(1.5)	5.8	浅黄橙色 * 灰白色	①②削輪ナデ。③貼付けによる輪高台。高台はやや内消して下がり、端部は面をなす。		
I 5 *	*	土師質土器 椀	-	(1.4)	7.4	灰白色 * *	①摩耗。③貼付けによる輪高台。高台端部は面をなす。		
I 6 *	*	土師質土器 椀	-	(1.1)	8.2	浅黄橙色 黄灰色	①摩耗。②回転ナデ。③貼付けによる輪高台。高台端部は面をなす。		
I 7 *	*	土師質土器 椀	-	(1.3)	5.6	黄色 浅黄色 灰白色	①②摩耗。③紐状の輪高台を貼付する。内面底部はやや凹む。		
I 8 *	*	土師質土器 皿	7.6	1.5	5.8	橙色 * *	①摩耗。②回転ナデ。③小皿。平底。口縁端部は丸く収める。底部切り離しは摩耗により不明瞭。胎土微細ガラスを含む。		
I 9 I区	SK1 検出面	弥生土器 甕	-	(3.3)	-	にぶい黄橙色 灰黃褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、外縁に折り返してやや肥厚させる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に削目。胎土微細ガラスを含む。		
I 10 *	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	褐色 * *	①②ナデ。③胴部上位はやや内消して内側に上がる。外縁部の凸縁が巡る。胎土 1mm程度までの金雲母片及び微細ガラス多含。		
I 11 *	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	褐色 にぶい橙色	①②悪いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁端部に浅い削目。外面断面台形の削目突帯。		
I 12 *	*	縄文土器 深鉢	-	(1.4)	-	黄灰色 浅黄橙色 褐灰色	①②ラミガキ。②丁寧なナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。		
I 13 *	SK1 1層	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい橙色 灰褐色 浅黄橙色	①②柔軟。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。		
I 14 *	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位は僅かに外反して口縁部に向かう。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。		
I 15 *	*	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	にぶい黄橙色 にぶい青色 灰褐色	①②ナデ。③平底。底部外縁はやや棱をなし、胴部は直縫の合方に上がる。内縫接合痕。		
I 16 *	SK1 2層	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 にぶい赤褐色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突帯。外縫接合痕。胎土微細ガラス多含。		
I 17 *	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄橙色 * 灰色	①②ラミガキ。③胴部上位で段状に屈曲し、口縁部は外反して開く。波状口縁。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。内面 1 条沈縫が認る。		
I 18 *	*	縄文土器 深鉢	-	(5.9)	-	にぶい黄橙色 * 黄灰色	①②柔軟。③胴部は僅かに内消して上がる。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。		
I 19 *	SK1 3層	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	にぶい黄橙色 明黄褐色 灰褐色	①ナデ。②悪いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細な白色砂粒多含。		
I 20 *	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 灰黃褐色 黄灰色	①ナデ。ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土 0.5mm 大の角閃石及び微細ガラスを含む。		

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 21	I 区	SK1 3層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 褐灰色 。	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外斷面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 22	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	灰黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 23	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	にぶい黄褐色 灰黄色 褐色 灰色	①②条痕。③胴部は直線的に上がる。内輪接合帯。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 24	*	SK1 4層	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にぶい黄褐色 。	①②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外斷面三角形の刻目突帯。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 25	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	灰黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は外反気泡柱にかかり、端部は粗放に丸く収める。外斷面三角形の刻目突帯。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 26	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	棕色 明赤褐色 。	①②ナデ。③胴部上部はやや外反して口縁部に向かう。外斷面三角形の刻目突帯。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 27	*	SK2	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外斷面三角形の刻目突帯。	
I 28	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.8)	-	黒褐色 。	①ヘラミガキ。②ナデ。③口縁部はやや内溝して上がり、端部は丸く収める。波状口縁。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 29	*	SK3	縄文土器 深鉢	-	(5.9)	-	褐灰色 浅黄褐色 。	①②条痕。③胴部は直線的に上がる。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 30	*	SK4	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	黒褐色 にぶい橙色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外斷面三角形の刻目突帯。	
I 31	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい黄褐色 。	①②ナデ。③口縁部は直線的に上方に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外斷面円形の根状の刻目突帯を貼付する。胎土微細ガラスを含む。	
I 32	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に浅い刻目。外斷面万台形の刻目突帯。	
I 33	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.9)	-	黒褐色 にぶい黄色 。	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部はやや尖突如丸く収める。口縁端部に刻目。外斷面三角形の刻目突帯。突帯の上方に1ないし3mmの沈線。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 34	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	暗灰黄色 にぶい黄色 オリーブ黒色	①②相いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収めて外縁を僅かに厚壁させる。肥厚部に刻目。外斷面三角形の刻目突帯。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 35	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 にぶい褐色 。	①②ナデ。③口縁端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に浅い刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 36	*	*	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	浅黄色 浅黄褐色 。	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外斷面三角形の刻目突帯。外輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 37	*	SX4	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	黄褐色 明黄褐色 灰色	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外斷面三角形の刻目突帯。内輪接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 38	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。外斷面三角形の刻目突帯。	
I 39	*	*	弥生土器 甕	-	(1.9)	-	にぶい橙色 。	①ナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。胎土0.5mm程度までの角閃石を含む。	
I 40	*	SX5	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	黒褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②相いナデ。③口縁部はやや内溝し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外斷面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 41	I 区	SX5	縄文土器 深鉢	32.7	(23)	-	褐色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①口縁部ヨコナデ。②口縁部は直線的に上方に上がり、端部は丸く収める。口縁部外縁に刻目。外面断面付近に断面三角形の刻目突帯。	
I 42	+	SX6	縄文土器 深鉢	-	(19)	-	黄灰色 暗灰黄色 灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は尖気味に仕上げる。口縁部外縁に刻目。内面口縁部に1条沈線。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 44	+	SX7 検出面	縄文土器 深鉢	-	(4.3)	-	浅黄橙色 * 暗オリーブ灰褐色	①ナデ。②ナデ。③胴部上位は僅かに内溝して上がる。外面断面付近に断面三角形の刻目突帯。	
I 45	+	*	縄文土器 浅鉢	21.7	(22)	-	褐色 黒褐色 灰黄褐色	①ナデハミガキ。②刷部上位で屈曲して口縁部は内傾して上がる。口縁部上位で垂直方向に傾斜して上がり、端部は丸く収める。外面刷部屈曲部の上側に1条沈線。	
I 46	+	*	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	浅黄色 オリーブ黒色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁部に線状の刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 47	+	SX7 1層	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②柔直。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁部端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内面接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 48	+	*	縄文土器 深鉢	-	(5.0)	-	黄褐色 にぶい黄橙色 灰褐色	①柔直。②口縁部は内反し、端部は面をなして外縁に盛りする。口縁部端部に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 49	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	褐色 灰黄褐色 褐灰色	①ナデ。②ナデ。③胴部上位はやや内溝する。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 50	+	*	縄文土器 深鉢	-	(4.3)	-	黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 51	+	*	縄文土器 深鉢	-	(5.1)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	①ナデ。②ナデ。③口縁部ヨコナデ。④胴部～口縁部はやや内溝して上方に上る。口縁部はやや尖気味に丸く収める。口縁部に刻目。	
I 52	+	*	縄文土器 深鉢	-	(7.8)	-	黒褐色 にぶい黄橙色 黄褐色	①柔直。②柔直。③胴部は緩やかなS字状に済曲する。内傾接合痕。外面突帯が存在する可能性有。胎土微細ガラスを含む。	
I 53	+	SX7 2層	縄文土器 深鉢	-	(7.6)	-	にぬ・黄褐色・黒褐色 にぬ・黄褐色・灰黄褐色 にぶい黄橙色	①ナデ。②ナデ。③胴部上位は緩やかに屈曲し、口縁部に向かって上方に上る。外面断面屈曲部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 54	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 灰色	①柔直。②柔直。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。口縁部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 55	+	*	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	暗灰黄色 にぶい黄橙色 灰褐色	①ナデ。②柔直。③胴部は内溝する。外面柔軟線。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 56	+	*	縄文土器 深鉢	-	(7.4)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 灰褐色	①柔直。②柔直。③外面柔軟線。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 57	+	SX7 3層	縄文土器 深鉢	19.8	(7.4)	-	黑色 褐灰色 にぶい赤褐色	①柔直ナデ。②柔直。③胴部上位で縦や間に屈曲し、口縁部は外反する。口縁部端部は面をなす。口縁部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 58	+	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	オリーブ黒色 * 黄褐色	①ナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 59	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄色 * 暗灰黄色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部外縁に浅い刻目。外面断面扁平な三角形の刻目突帯。	
I 60	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	黄褐色 にぶい黄橙色 灰褐色	①柔直。②柔直。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部外縁に斜位の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 61	+	SX7	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	にぶい黄色 浅黄褐色 灰褐色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部外縁に斜位の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 62	I 区	SX7	縄文土器 深鉢	-	(26)	-	黒褐色 * *	①②ナデ。③口縁部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外側断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 63	*	*	縄文土器 深鉢	-	(20)	-	黄褐色 * 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は面をなす。外側断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 64	*	*	縄文土器 深鉢	-	(29)	-	橙色 灰黄褐色 黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く收める。内傾接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 65	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(27)	-	灰黄褐色 黒褐色 灰黄褐色	①ナデ。②ハラミガキ。③口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は面をなす。胎土金雲母片を若干含む。微細ガラスを含む。	
I 66	*	SX8	縄文土器 深鉢	-	(70)	-	暗灰黄色 黑色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は尖気味に仕上げる。外側口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合帯。胎土微細ガラス多含。	
I 67	*	*	縄文土器 深鉢	31.0	(7.5)	-	灰黄色 灰黄褐色 灰褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く收める。外側断面三角形の刻目突帯。胎土 15mm 程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 68	*	SX9	縄文土器 深鉢	-	(32)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	①②ナデ。③胴部はやや内湾して上がる。外側断面三角形の刻目突帯。内傾接合帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 69	*	SX10	縄文土器 深鉢	-	(22)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色 浅灰褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く收める。外側断面カマボコ形の刻目突帯。外傾接合帯。	
I 70	*	SX11	縄文土器 深鉢	-	(6.7)	-	灰色 明赤褐色 灰色	①②ナデ。③胴部はやや内湾する。外側断面三角形の刻目突帯。内傾接合帯。	
I 71	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(21)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰褐色	①~④ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。波状口縁とみられる。内側口縁部に 1 条沈窓。	
I 72	*	*	弥生土器 壺か	-	(13)	-	にぶい橙色 * オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は外方に開き、端部は面をなす。口縁端部内縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 73	*	*	弥生土器 壺	-	(23)	-	橙色 にぶい橙色 *	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
I 74	*	SX13	縄文土器 深鉢	-	(12)	-	にぶい黄褐色 * 黄褐色	①ナデ。③洞窓。④口縁部は面をなし、内面寄りに沈窓状の凹みが認められる。	
I 75	*	SX15	縄文土器 深鉢	-	(23)	-	黒褐色 黄褐色 黄褐色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面をなす。口縁端部外縁に沈窓状の刻目。外側断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 76	*	SX16	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に仕上げる。外側口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 77	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	浅黄色 灰黄褐色 オリーブ黒色	①ナデ。②条痕。③胴部上位に補修孔とみられる外側からの焼成後穿孔。	
I 78	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.1)	-	黒褐色 灰褐色	①ナデ。②細いナデ。③胴部は直線的に上がり。外側断面三角形の刻目突帯。	
I 79	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.7)	-	暗灰黄色 灰黄褐色 黒褐色	①~④ナデ。③胴部はやや内湾する。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁。口縁部の内外面に 1 条沈窓。胎土微細ガラスを含む。	
I 80	*	SX17	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	黒褐色 灰黄褐色 灰色	①粗いナデ。②条痕。③胴部は僅かに内湾する。内傾接合帯。	
I 81	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	浅黄色 にぶい橙色 灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。外側口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 82	I 区	SX17	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黄灰色 橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外側に削目。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 83	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く取める。外面口縁部に扁平な削目突帯。内縫接合痕。	
I 84	+	*	縄文土器 深鉢	-	(6.6)	-	にぶい黄橙色 灰青褐色 黄灰色	①ナデ。②柔痕。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に削目。外面断面カマボコ形の削目突帯。外縫縦縫。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 85	+		SX18 弥生土器 壺	15.2	(2.2)	-	にぶい橙色 灰オリーブ色	①②ハラミガキ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。	
I 86	+	P8	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄橙色 暗青灰色	①相いナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 87	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	灰青褐色 浅黄橙色 暗灰色	①ナデ。②柔痕。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く取めて外縁をやや拡張する。外面断面カマボコ形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 88	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	暗灰黄色 褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く取れる。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 89	+	P14	縄文土器 深鉢	18.0	(4.8)	-	黒褐色 灰褐色 黑褐色	①相いナデ。②柔痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 90	+	P30	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	黒褐色 浅黄色 +	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く取める。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 91	+	P36	弥生土器 壺	-	(7.4)	-	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。③胴部上位で擬口縁に断面平坦面をなす。	
I 92	+	P45	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	褐色 黒褐色 褐灰色	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外面断面三角形の削目突帯。	
I 93	+	P70	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	暗灰褐色 にぶい黄褐色 浅黄橙色	①②ナデ。③胴部上位は内縫して上がり、やや角度を変えて口縁部は上方に上がる。口縁端部は丸く取め、外縁を僅かに肥厚させる。外面口縁部に1条柔線。	
I 94	+	P71	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	にぶい黄色 +	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く取める。外面断面三角形の削目突帯。	
I 95	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	暗オリーブ褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く取める。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 96	+	火凧4	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	にぶい黄橙色 オリーブ黒色	①ナデ。②柔痕。③口縁部は外反し、端部は丸く取める。口縁端部に削目。内縫接合痕。	
I 99	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰青褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く取れる。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 100	+	*	縄文土器 深鉢	28.4	(6.9)	-	浅黄色 明黄褐色 灰褐色	①②相いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は尖気味に丸く取れる。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土1.5mm程度までの白通色砂粒を含む。	
I 101	+	包含層	土師器 羽釜	-	(1.0)	-	にぶい黄褐色 +	②肩部ナデ③脚部は水平に伸び、端部は面をなす。面内に1条の浅い沈線状の線。胎土微細ガラス多含。	
I 102	+	*	弥生土器 壺	-	(1.1)	-	にぶい黄褐色 +	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に矧く開き、端部は丸く取る。	
I 103	+	*	弥生土器 壺	-	(3.3)	-	棕色 にぶい黄褐色 +	①②ナデ。③外面胴部上位に多条沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 104	I 区	包含層	弥生土器壺	-	(28)	-	橙色 浅黃橙色	①②ナデ。②外面胴部上位に1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	
I 105	*	*	弥生土器壺	-	(28)	-	にぶい黄橙色 にぶい褐色 灰色	①ナデ。②ハケ・ヘラミガキ。③外面胴部上位に残存部で3条の沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 106	*	*	弥生土器壺	-	(28)	-	にぶい橙色 *	①②ナデ。③平底。	
I 107	*	*	弥生土器壺	-	(5.0)	-	にぶい黄橙色 灰黄色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に深い削目。外輪接合痕。胎土微細ガラスを含む。	西見当式
I 108	*	*	弥生土器壺	17.7	(4.0)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③胴部上位～口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。	西見当式
I 109	*	*	弥生土器壺	-	(6.3)	-	にぶい褐色 褐灰色 灰黄色	①ナデ。②横位ハケ後継位ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は緩やかに外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に削目。外輪接合痕。胎土微細ガラスを含む。	西見当式
I 110	*	*	弥生土器壺	-	(2.7)	-	にぶい褐色 灰白色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。	西見当式
I 111	*	*	弥生土器壺	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 *	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部に削目。	
I 112	*	*	弥生土器壺	-	(7.4)	-	にぶい橙色 橙色 浅黃橙色	①②ナデ。③瓶部は緩やかに屈曲する。外輪接合痕。	
I 113	*	*	弥生土器壺	-	(4.6)	8.2	橙色 にぶい褐色	①ナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③平底。	
I 114	*	*	弥生土器壺	-	(3.5)	4.0	にぶい黄橙色 暗灰黄色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。底部外縁はやや丸みを帯びる。	
I 115	*	V層	縄文土器深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内輪接合痕。	
I 116	*	*	縄文土器深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に削目。外輪断面三角形の削目突帯。突帯の上下は沈線状に凹む。内輪接合痕。	
I 117	*	*	縄文土器深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 暗灰黄色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の削目突帯。内輪接合痕。	
I 118	*	*	縄文土器深鉢	-	(3.0)	-	灰黃褐色 褐灰色 灰黃褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗粒な面をなす。外面断面三角形の削目突帯。内輪接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 119	*	*	縄文土器深鉢	-	(3.6)	-	黑色 暗褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。外面口縁部付近に断面三角形の削目突帯。内輪接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 120	*	*	縄文土器深鉢	-	(4.0)	-	にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内輪接合痕。	
I 121	*	VI - 1 - 2層	縄文土器深鉢	-	(2.5)	-	灰黃褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。胎土0.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 122	*	*	縄文土器深鉢	-	(3.4)	-	にぶい黄橙色 浅黃橙色 灰黃褐色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は尖角味に仕上げる。外面断面三角形の削目突帯。	
I 123	*	*	縄文土器深鉢	-	(3.6)	-	オリーブ黒色 淡黃色 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の削目突帯。外輪接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 124	I 区	VI - 1 - 2層	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	オリーブ黒色 灰白色 褐色	①内面調整 ②外面調整 ③形状等 ④2条底。⑤口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 125	+	*	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	灰白色 淡黄色 灰色	①2ナデ。②口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 126	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい橙色 * 黄灰色	①2ナデ。②外面断面三角形の削目突帯。	
I 127	+	*	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①2ナデ。②口縁部は丸く收める。外面口縁部付近に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 128	+	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 * *	①2口縁部ヨコナデ。②口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く收めて外側を肥厚させる。口縁端部に削目突帯。	
I 129	+	*	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	暗灰黄色 * 褐灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く收める。口縁端部に削目。外面断面台形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 130	+	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	オリーブ黒色 黑褐色 灰褐色	①2口縁部ヨコナデ。②口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。内縫接合痕。	
I 131	+	*	土製品 不明	全長 (3.4)	全幅 (2.1)	全厚 (0.6)	にぶい赤褐色 * 灰色	①2ナデ。②口縁部に赤色顔料を施す。胎土0.5mm程度の角閃石を含む。微細ガラス多含。	
I 136	+	V層	土師質土器 皿か杯	15.8	(1.3)	-	浅黄橙色 * *	①2摩耗。②口縁部は外反し、端部は丸く收める。	
I 145	+	V - VI 層	弥生土器 壺	-	(1.6)	-	浅黄橙色 橙色 暗灰色	①2ナデ。②口縁部は短く外反し、端部は丸く收める。内面の一部及び外側に赤色顔料が付着する。	
I 146	+	*	弥生土器 壺	-	(3.1)	-	にぶい橙色 灰黃褐色 灰色	①2ナデ。③胴部上位に抉りによる段を有する。胎土1.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 147	+	*	弥生土器 壺	28.0	(1.8)	-	浅黄橙色 にぶい黄橙色 暗オリーブ灰色	①ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は面をなして下端をやや拡張する。口縁端部下端に削目。	
I 148	+	*	弥生土器 壺	-	(2.0)	-	にぶい黄橙色 * *	①2口縁部ヨコナデ。②口縁部は短く外反し、端部は丸く滑びた面をなす。口縁端部に削目。	西見尚式
I 149	+	*	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	にぶい黄橙色 * 灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に削目。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	西見尚式
I 150	+	*	弥生土器 壺	-	(1.5)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色	①2口縁部ヨコナデ。③胎付口縁。口縁端部は水平面をなし。外側に抵抗する。	非在地系か
I 151	+	*	弥生土器 壺	-	(2.0)	-	灰黄色 浅黄橙色 黄褐色	①2ナデ。③外面2条沈線による区内間に削突を施す。	
I 152	+	VI層	弥生土器 壺	-	(3.6)	12.0	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰黄褐色	①ナデ。ユビオサエ。②ナデ。③平底。胎土微細ガラスを含む。	
I 153	+	*	弥生土器 壺	-	(2.2)	7.0	橙色 * 褐灰色	①ナデ。②ハケ。底部ナデ。③平底。底部外縁は外側にやや張り出す。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 154	+	包含層	弥生土器 壺	-	(2.3)	-	橙色 にぶい橙色 *	①ナデ。②ハケ。ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 155	+	V - VI 層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	暗灰黄色 浅黄色 暗灰黄色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁端部内外縁に半裁竹管による削目。外面口縁部に多条沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 156	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く取め て外側でやや傾をなす。外面断面三角形の削目突帯。	
I 157	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰白色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く收める。 外面断面扁平な三角形の削目突帯。	
I 158	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰色 * *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く收める。 外面断面三角形の削目突帯。内頸接合痕。胎土白色砂粒 を含む。	
I 159	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 灰青褐色 黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收め る。外面断面三角形の削目突帯。	
I 160	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸 く收める。外面断面三角形の削目突帯。	
I 161	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は薄い面を なす。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 162	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 * 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反する。口縁端部は 圓をなし、外側をやや抵張する。外面断面カマボコ形の 削目突帯。外頸接合痕。	
I 163	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.2)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①条痕。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。 外面口縁部付近に断面カマボコ形の削目突帯。胎土1mm程度 までの白透色砂粒を含む。	
I 164	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	淡褐色 灰色 *	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面 をなす。外面口縁部付近に断面カマボコ形の削目突帯。 内頸接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 165	*	*	縄文土器 深鉢	30.7	(15.3)	-	灰黃褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②条痕。③制部上位は内傾し、口縁部は上方に上がる。 口縁端部は尖気味に丸く收める。外面断面三角形の削目 突帯。内頸接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 166	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	橙色 * 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く仕上 げる。外面断面三角形の削目突帯。内頸接合痕。	
I 167	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 灰白色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は内傾し、口縁部は上方に上がる。 口縁端部に浅い窪状の削目。外面断面三角形の削目突 帯。内頸接合痕。	
I 168	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は中央がやや凹 む面をなす。口縁端部は突帯状に抵張し、削目を施す。 外面断面三角形の削目突帯。内頸接合痕。	
I 169	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に 丸く收める。口縁端部外縁に削目。外面断面三角形の削目突 帯。内頸接合痕。	
I 170	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.8)	-	灰黃褐色 青褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收め る。口縁端部外縁に削目。外面断面台形の削目突 帯。内頸接合痕。	
I 171	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 灰黃褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。口縁 端部外縁に削目。外面断面三角形の削目突帯。内頸接合 痕。	
I 172	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	灰黃褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收め る。口縁端部に削目。内面部口縁部に1条沈線。外面断面 三角形の削目突帯。内頸接合痕。	
I 173	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黄褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の削目突帯。内頸接合痕。 胎土微細ガラスを含む。	
I 174	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黃褐色 * *	①②ナデ。③外面断面三角形の削目突帯。内頸接合痕。	
I 175	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	灰黃褐色 * *	①粗いナデ。②ナデ。③外面断面三角形の削目突帯。内 頸接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 176	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 灰黃褐色	①②ナデ。③外断面三角形の削目突帯。	
I 177	タ	*	縄文土器 浅鉢	17.4	(5.5)	-	黒褐色 * *	①②ヘラミガキ。③口縁部は上方に上がり、端部は水平な面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
I 178	タ	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	にぶい橙色 * 黒褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁の可能性有。内面口縁部に1条沈線。	
I 179	タ	*	縄文土器 壺	-	(2.5)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位～口縁部にかけて内傾して上がる。外面1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	変容型
I 180	タ	VI層	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	灰黄褐色 暗灰褐色 +	①②条痕。③口縁端部は細く仕上げる。外面口縁部付近に断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 181	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	暗灰色 * *	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外断面台形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 182	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	暗灰黄色 灰白色 暗灰色	①ナデ。②摩耗。③口縁部は上方に上がり、端部は丸く収める。外断面カマボコ形の削目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 183	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	①②条痕。③口縁端部は面をなす。外断面三角形の削目突帯。外傾接合痕。	
I 184	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰黄褐色 * 褐色	①ナデ。②条痕。③口縁端部は粗放な面をなす。口縁端部に削目。外断面台形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 185	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。口縁端部に線状の削目。外断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 186	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 黄褐色	①②ナデ。③波状口縁とみられる。口縁端部は丸く収める。口縁端部に浅い戻状の削目。外断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 187	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	黒褐色 灰黄褐色 黄褐色	①ナデ。②条痕。③外傾斜位の2条沈線。外断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 188	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	明褐色 灰褐色 黄褐色	①②条痕。③胴部上位は内済する。外断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 189	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	褐灰色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②摩耗。③外断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 190	タ	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.9)	-	にぶい橙色 * 黒褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。波状口縁とみられる。内面及び外断面口縁部に1条沈線。胎土1.5mm程度の白透明砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 191	タ	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.4)	-	黒褐色 灰黄褐色 黑色	①ヘラミガキ。②ナデ。③口縁部は短く外反する。波状口縁とみられる。口縁端部は狭く粗放な面をなす。口縁端部に削目。内面口縁部に凹縫状の縫が通る。	
I 192	タ	*	縄文土器 浅鉢	-	(4.5)	-	にぶい黄褐色 * オリーブ黒色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 193	タ	*	土製品 不明	全長 5.8	全幅 5.8	全厚 1.2	灰褐色 橙色 にぶい赤褐色	①②ナデ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。	
I 201	タ	包含層	弥生土器 壺	-	(2.5)	-	橙色 * にぶい黄褐色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③外断面胴部上位に削り出しによる段を形成する。胎土1mm程度の白透明砂粒を含む。	
I 202	タ	*	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	橙色 * にぶい黄褐色	①ナデ。②ハケ。③外断面胴部上位に残存部で1条の沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 203	I 区	包含層	弥生土器壺	-	(36)	9.2	にぶい赤褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②ナデ。ヘラミガキ。③平底。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 204	*	*	弥生土器壺	-	(25)	7.5	灰黃褐色 にぶい橙色 にぶい褐色	①②ナデ。③平底。胎土1.5mm程度までの白透色砂粒を含む。	
I 205	*	*	弥生土器壺	-	(5.5)	7.6	灰黃褐色 にぶい橙色 黃灰色	①ナデ・ユビナデ。②ナデ。③やや突出する平底。	
I 206	*	*	弥生土器壺	-	(3.3)	7.4	橙色 灰黃褐色	①②ナデ。③やや突出する平底。底部外縁は外側に僅かに拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
I 207	*	*	弥生土器壺	-	(1.5)	-	にぶい橙色 黃灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部に指擦圧痕。③頸部で屈曲し、口縁部は外上方に短く聞く。船付口縁。口縁端部は面をなす。	
I 208	*	*	弥生土器壺	-	(1.5)	-	にぶい橙色 灰黃褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外上方に短く上がり、端部は面をなす。口縁部外縁に深い刻目。	西見当式
I 209	*	*	弥生土器壺	-	(4.5)	-	灰黃褐色 浅褐色 灰黃褐色	①ナデ。②ハケ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた丸みをもつ。口縁端部に押圧による浅い刻目。外縁2条沈状。外縁接合痕。	西見当式II式
I 210	*	*	弥生土器壺	-	(2.3)	-	明黄褐色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた丸みをもつ。口縁端部に刻目。胎土1.5mm程度までの白透色砂粒を含む。	西見当式
I 211	*	*	弥生土器壺	-	(2.7)	-	にぶい黄褐色 灰白色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。胎土1.5mm程度までの白透色砂粒を含む。	西見当式
I 212	*	*	弥生土器壺	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 *	①②ナデ。③外面断面三角形の突帯。外縁接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 213	*	*	弥生土器壺	-	(2.2)	-	橙色 灰黃褐色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた丸みをもつ。口縁端部外縁に刻目。	西見当式
I 214	*	*	弥生土器壺	-	(2.4)	-	明黄褐色 にぶい黄褐色	①ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収め、外側に折り返して肥厚させる。口縁端部に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 215	*	*	弥生土器壺	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部及び外縁口縁部下位に刺突状の刻目を施す。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	西見当式
I 216	*	*	弥生土器壺	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 灰黃褐色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③外面削目を伴う段部を有する。外縁接合痕。	
I 217	*	*	弥生土器壺	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色/褐色	①②ナデ。③口縁部は短く外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	西見当式
I 218	*	*	弥生土器壺	-	(2.2)	-	にぶい褐色 にぶい橙色 灰黃褐色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収め、外側を肥厚させる。外縁口縁部肥厚部に刻目。外縁接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 219	*	*	弥生土器壺	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 灰褐色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部外縁に刻目。外縁接合痕。	
I 220	*	*	弥生土器壺	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 221	*	*	縄文土器深鉢	28.9	(3.3)	-	にぶい褐色 浅褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 222	*	*	縄文土器深鉢	-	(2.0)	-	オリーブ黒色 褐灰色	①②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内縁接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 223	I 区	包含層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	暗灰黄色 * 黄灰色	①②ナデ。③口縁端部は丸く收める。外側口縁部付近に 断面三角形の削目突帯。	
I 224	タ	*	縄文土器 深鉢	22.8	(3.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 暗灰黄色	①②ナデ。③口縁部はやや内傾して上がり、端部は面をなす。口縁 端部が斜めに削り、内面・底面部に削目突。外側口縁部付近に断面三 角形の削目突帯。土台0mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 225	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。 外側口縁部に断面三角形の削目突帯。	
I 226	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 褐灰色 *	①②ナデ。③口縁部は直線的に外方に上がり、端部は 斜めに仕上げる。外側口縁部に断面三角形の削目突帯。 土台1.5mm程度までの白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 227	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗歯で丸く收 める。口縁端部に削目。外側断面三角形の削目突帯。内 傾接合痕。	
I 228	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 * 黄灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は 斜めに收めて外側をやや肥厚させる。口縁端部付近に削 目端部に三角形の削目突。内傾接合痕。土台微細ガラスを含む。	
I 229	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黒褐色 灰黒褐色 褐灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は粗歯で丸く收 める。口縁端部に深い穂先の削目を複数に施す。外側削目突 帶。土台微細ガラスを含む。	
I 230	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黒褐色 * にぶい橙色	①ナデ。②口縁部面をなす。口 縁端部に削目。外側断面三角形の削目突帯。	
I 231	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	暗灰黄色 黄褐色 灰黒褐色	①ナデ。②想いナデ。③口縁部は面をなす。口 縁端部に削目。内傾接合痕。	
I 232	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	浅黄色 * オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は丸く收め、外側をやや傾けた 外側面にカマボコ形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 233	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁端部はやや尖気味に丸く收 め、外側を強く肥厚させる。外側断面三角形の削目突帯。 土台微細ガラスを含む。	
I 234	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。口 縁端部に浅い穂状の削目。外側断面三角形の削目突帯。外傾 接合痕。土台0.5mm程度までの金雲母片及び微細ガラスを含む。	
I 235	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③外側断面三角形の削目突帯。土台3mm程度 までの白透色砂粒を含む。	
I 236	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③外側断面三角形の削目突帯を2段階付する。	
I 237	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	①②想いナデ。③外側斜位の沈線が3条みられる。内 傾接合痕。	
I 238	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.8)	-	浅黃褐色 にぶい黄褐色 暗灰褐色	①②ナデ。③外側横位の沈線が1条みられる。内傾接合 痕。	
I 239	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	浅黃褐色 褐色 明黄褐色	①②ナデ。③外側断面三角形の削目突帯。土台微細ガラ スを含む。	
I 240	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	黃褐色 暗灰褐色 黃褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收 める。口縁端部内外縁に縦状の削目。内傾接合痕。土台微 細ガラスを含む。	
I 241	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黑色	①②ナデ。③外側断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。 土台微細ガラスを含む。	
I 242	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③外側扁平な削目突帯。突帯の下側に粗歯な 沈線。土台1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 243	I 区	包含層	縄文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	暗灰褐色 黒褐色 *	①内面調整 ②外面調整 ③形状等	
I 244	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラス多含。	
I 245	*	*	土製品 不明	全長 3.7	全幅 3.5	全厚 0.5	にぶい黄橙色 *	①②ヘラミガキ。③内盤状の土製品。土器片を円形に整形する。胎土微細ガラス多含。	
I 250	*	*	弥生土器 壺	-	(6.0)	-	橙色 灰オリーブ色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面 2 条沈線の間に列点文。胎土 1mm 程度までの白透色砂粒及び角閃石を含む。	
I 251	*	*	弥生土器 壺	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	①ハケ・ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	西見当式
I 252	*	*	弥生土器 壺	-	(2.3)	-	浅黄色 *	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。	西見当式
I 253	*	V・VI 層	縄文土器 壺	-	(3.5)	-	にぶい褐色 *	①②ヘラミガキ。③外面底部上位で棱をなして屈曲し、口縁部は外上方に矧く上がる。口縁端部は丸く收める。外傾接合軸。胎土 0.5mm 程度の金雲母片及び微細ガラスを含む。	
I 254	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄色 暗灰褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収めて外側にやや括張る。口縁端部に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合軸。胎土微細ガラスを含む。	
I 255	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	明黄褐色 にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外面断面カボコ形の刻目突帯。内傾接合軸。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	
I 256	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい橙色 橙色 赤橙色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 257	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。条痕。④口縁部に線状の刻目。内面口縁部に複数の沈線が 1 条ある。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 258	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	オリーブ黒色 暗灰褐色 暗褐色	①条痕。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや歪む。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に扁平な刻目突帯。	
I 259	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②粗いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなす。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。外面口縁部に朱が僅かに付着する。内傾接合軸。胎土微細ガラスを含む。	
I 260	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	灰色 *	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	
I 261	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄褐色 *	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く收める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合軸。	
I 262	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい黄橙色 *	①②ナデ。③口縁部は外反気味に開き、端部は細く仕上げる。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。突帯の上位に刻目突帯の刻目。	
I 263	*	*	縄文土器 深鉢	-	(6.0)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい橙色	①粗いナデ。②板位の条痕。③内傾接合軸。胎土微細ガラスを含む。	
I 264	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	暗灰褐色 *	①②ナデ。③外面残存部に複数条を 1 単位とする板位の沈線を複数施す。胎土微細ガラスを含む。	
I 265	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②条痕。③外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合軸。	
I 266	*	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く收める。外面断面三角形の刻目突帯。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 267	I 区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	浅黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。外面断面三角形の割目突帯。胎土1mm程度までの白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 268	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	灰黄褐色 褐色 灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は丸く收める。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 269	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の割目突帯。	
I 270	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	暗灰黄色 にぶい黄色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く收める。外面断面カマボコ形の割目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 271	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にほい黄褐色 にほい黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は細く上げる。外面口縁部付近に断面カマボコ形の割目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 272	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	暗灰黄色 浅黄色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は尖気味に丸く收める。口縁端部に割目。外面口縁部に断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。	
I 273	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	にほい黄橙色 浅黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。	
I 274	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	黒褐色 暗灰黄色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は丸く收める。口縁端部に割目。内縫接合痕部に深く幅広の沈窪。外面口縁部に断面扁平な三角形の割目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 275	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	黒褐色 にほい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁端部は尖気味に丸く收める。口縁端部に断面三角形の割目突帯。胎土0.7mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 276	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	灰黄色 灰色 暗灰色	①②ナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外面口縁部に断面三角形の割目突帯。	
I 277	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にほい黄褐色 浅黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縁端部は尖気味に丸く收める。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。	
I 278	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	灰色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。内縫接合痕部に四輪状の複数の彫りを施す。外面断面三角形の割目突帯。	
I 279	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にほい黄褐色 灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く上げる。外面断面三角形の割目突帯。外縫接合痕。	
I 280	〃	〃	縄文土器 深鉢	17.3	(5.7)	-	灰白色 灰黄褐色 黄褐色	①ナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は中央がやや凹む粗放な面をなす。口縁端部外縁に割目。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 281	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にほい黄褐色 浅黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く收める。外面断面三角形の割目突帯。突帯の下側に直径3mm、間隔2cm程度の外縁からの穿孔による孔列文。内縫接合痕。	孔列文 土器
I 282	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にほい黄褐色 黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く收める。外面断面三角形の割目突帯。内縫接合痕。	
I 283	〃	〃	縄文土器 深鉢	20.1	(7.3)	-	黒褐色 にほい黄褐色 にほい黄褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部は胎土と内縫にナデつける。口縁端部に彫刻。外面断面三角形の割目突帯。	
I 284	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黒褐色 にほい黄褐色 灰色	①②ナデ。③外面断面カマボコ形の割目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 285	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	暗灰黄色 灰黄色	①②ナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。口縁端部外縁に割目。内縫接合痕。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 286	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にほい黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。口縁端部外縁に割目。内縫接合痕。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 287	I 区	V 層	縄文土器 深鉢	-	(5.5)	-	黒褐色 にぶい褐色	①内面調整 ②外面調整 ③形状等 ④条痕。⑤内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 288	*	*	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面 X 字状の斜行沈線の両側に刻目を施す。胎土 1mm程度の白透明砂粒を含み、金雲母片を含む。微細ガラス多含。	北陸系
I 289	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	暗灰黄色 黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③腹部上位はやや外反する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 290	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は上方に上がり、端部は丸く取れる。口縁端部外縁に刻目。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 291	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黃褐色 にぶい褐色 暗灰褐色	①ナデ。②細いナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 292	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.9)	-	明黄褐色 * 浅黄褐色	①②ナデ。③口縁端部は粗な面をなす。外面爪状の押圧によるとみられる刻目を残存部で 2段施す。	非在地系か
I 293	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 * 暗灰黄色	①②ヘラミガキ。③外面多条沈線。	北陸系
I 294	*	*	縄文土器 壺	-	(5.9)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	①②条痕。③腹部上位は穂やかな S 字状のカーブを描く。外面斷面文、内傾接合痕。外面炭化物付着。胎土微細な白色砂粒を含む。	変容型
I 295	*	包含層	弥生土器 壺	-	(3.9)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 暗灰黄色	①②ナデ・ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に段を作り出し、突帯状をなす。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 296	*	*	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	にぶい黄褐色 * *	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く取める。胎土金雲母片、角閃石、微細ガラスを含む。	
I 297	*	*	弥生土器 壺	-	(2.4)	-	浅黄色 * 黄褐色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く取れる。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	西見当式
I 298	*	*	弥生土器 壺	-	(1.5)	-	にぶい黄褐色 * 暗灰黄色	①ナデ。③口縁端部は丸く取れる。外面口縁部に断面カマボコ形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 299	*	*	弥生土器 壺	-	(1.2)	-	灰白色 浅黄褐色 暗灰褐色	①②ナデ。③口縁端部は粗放に丸く取れ、外側を拉張する。口縁端部外縁に刻目。	
I 300	*	*	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	にぶい黄色 にぶい黄褐色 *	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く取れる。	
I 301	*	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	にぶい黄色 にぶい黄褐色 黄褐色	①ナデ。②細いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 302	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	黒褐色 黄褐色 灰黃褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く取れる。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 303	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 * オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く取れる。外面断面三角形の刻目突帯。横状の刻目は突帯の上下に延長する。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 304	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	暗灰黄色 * 灰色	①②ナデ。③口縁端部は尖気味に丸く取れる。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 305	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.3)	-	橙色 にぶい橙色 橙色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面圓台形の刻目突帯。	
I 306	*	*	縄文土器 深鉢	25.0	(7.5)	-	にぶい黄色 * 黄褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗な面をなす。口縁端部内外縁に刻目。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 307	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(24)	-	灰褐色 にぶい褐色	①口縁部コナデ。②口縁部は外反し、端部は丸く收める。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 308	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(25)	-	にぶい黄褐色 灰黃褐色 黄褐色	①ナダ。②口縁部はやや外反し、端部は面をなす。外面口部付近に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 309	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(27)	-	黒褐色 にぶい褐色 灰褐色	①②条痕。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなす。口縁端部に浅い削目。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 310	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(36)	-	にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②粗いナダ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなして外縁を抵触する。口縁端部が強部に削目。外面口部付近に断面マヨボコ形の削目突帯。外縫接合痕。	
I 311	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(26)	-	褐色 にぶい橙色 灰オリーブ色	①②ナダ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に削目。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。削目は摩耗により不明瞭。	
I 312	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(19)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナダ。③口縁端部は粗放に丸く收める。外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 313	*	*	縄文土器 深鉢	-	(47)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰褐色	①ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。波状口縁とみられる。口縁端部内外縁に削目。内面口縁部に1条沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 314	*	*	縄文土器 深鉢	-	(48)	-	暗灰黄色 灰褐色 黄褐色	①②ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 315	*	*	縄文土器 深鉢	-	(21)	-	暗灰黄色 浅灰色 オリーブ黒色	①②ナダ。③外面断面三角形の削目突帯。	
I 316	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(17)	-	灰褐色 にぶい赤褐色	①②丁寧なナダ。③外面断面三角形の削目突帯。	
I 317	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(17)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②丁寧なナダ。③外面不規則に交差する斜行沈線。	
I 318	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(29)	-	灰褐色 浅黄褐色 灰褐色	①②ナダ。③外面直径5mm、間隔3cm程度の外面からの焼成穿孔による孔列文。残存部の穿孔は非貫通に仕上げられる。	孔列文 土器
I 319	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(47)	-	浅褐色 灰褐色 黄褐色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は尖気味に丸く收める。外面口縁部付近に断面三角形の削目突帯。継続の削目は窓の上半～口縁端部外縁にまで及ぶ。内縫接合痕。	
I 320	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(62)	-	黒褐色 暗褐色 灰褐色	①②ナダ。③口縁部はやや屈曲して上方に上がり、端部は丸く收めて外縁に拗む。口縁端部に削目。外面断面三角形の削目突帯を2段貼付する。内縫接合痕。胎土微細ガラス多含。	
I 321	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(35)	-	黄褐色 浅黄褐色 黄褐色	①②ナダ。③外面4稜状の縦が1条温る。内縫接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 322	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(39)	-	にぶい橙色 灰黃褐色 にぶい橙色	①②粗いナダ。③外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 323	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(46)	-	灰黃褐色・黑色 暗褐色 褐灰色	①②ナダ。③口縁部は外反し、端部は面をなして外縁をやや肥厚させる。外面4稜状。内縫接合痕。	
I 324	タ	*	縄文土器 深鉢	-	(27)	-	灰褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナダ。③口縁部は丸く收める。外面口縁部に1条沈線。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。	
I 325	*	*	縄文土器 深鉢	-	(44)	-	灰褐色・灰白色 淡黄色 灰白色	①②ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は外側に丸く收める。外面断面三角形の削目突帯。内縫接合痕。やや燒成不良。	
I 326	タ	*	縄文土器 浅鉢	-	(28)	-	灰褐色 褐色 明褐色	①②ナダ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く收める。波状口縁とみられる。外面1条の線状痕。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量(cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 327	I 区	V・VI層	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄褐色 。	①内面調整 ②外面調整 ③形状等	
							。	①②ヘラミガキ。③脇部は直線的に外上方に上がる。外 面多条沈線。	北陸系
I 328	*	*	縄文土器 浅鉢	18.9	(2.7)	-	明赤褐色 。	①②ヘラミガキ。③口縁部は僅かに内済して上方に上がり、 端部は丸く取れる。内外面に赤色繪彩を施す。内傾接合痕。 胎土0.7mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 329	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(4.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい赤褐色	①②ヘラミガキ。③脇部上位で近くの字状に屈曲し、口 縁部は内側に上がる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。	
I 330	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(5.7)	-	にぶい褐色 。	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③脇部は内済気味に外上 方に上がり、上位で近くの字状に屈曲する。	
I 331	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(4.2)	-	褐色 褐色/灰オリーブ色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸 く取れる。波状口縁とみられる。	
I 332	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 。	①②ナデ。③口縁部は僅かに内済して上がり、端部は丸 く取れる。	
I 333	*	*	縄文土器 浅鉢	32.2	(9.2)	-	灰黄褐色 灰褐色 灰褐色	①②ヘラミガキ。③脇部は内済気味に上がる。脇部上位で連 くの字状に屈曲し、口縁部は外反気味に上方へ上がる。口縁 端部は丸く取れる。外面口縁部の一部に赤色繪彩が付着する。	
I 334	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(2.4)	-	灰黄褐色 。	①②ヘラミガキ。③口縁部は僅かに内済して上がり、端 部は丸く取れる。波状口縁とみられる。	
I 335	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	にぶい赤褐色 褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く取 れる。内面口縁下位に沈線。	
I 336	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 。	①ヘラミガキ。②摩耗。③口縁部は短く外反し、端部は丸 く取れる。波状口縁。内面1条沈線が認る。	
I 337	*	*	縄文土器 浅鉢	-	(4.0)	-	浅黄色 にぶい黄色 灰黄色	①②ヘラミガキ。③脇部は直線的に外上方に上がる。脇 部上位で屈曲し、口縁部に向て外上方に上がる。波状 口縁とみられる。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 338	*	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	明黄褐色 。	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く取れる。 口縁部外縁に削目。外面断面三角形の削目突帯。内傾 接合痕。	
I 339	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 。	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた 面をなす。口縁端部に削目。外縁削目突帯。内傾接合痕。	
I 340	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し。端部は丸く取れる。 外面口縁部に断面三角形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 341	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	褐黃色 灰黃褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。 外面断面三角形の削目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 342	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	灰黃褐色 にぶい黄褐色 オリーブ色	①ナデ。②粗いナデ。③外面断面三角形の削目突帯。内 傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 343	*	*	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	灰黄色 灰白色 暗灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は尖気味 に丸く取れる。口縁端部に削目。外面口縁部付近に断面 三角形の削目突帯。	
I 344	*	*	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	灰黃褐色 褐色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く取 れる。外面断面カーボン形の削目突帯。突帯は7mm程度 外方に突出する。内傾接合痕。外面灰化物付着。	
I 345	*	*	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く取 れる。外面断面扁平な三角形の削目突帯。内傾接合痕。	
I 346	*	*	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 。	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸 く取れる。口縁部はやや重む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
I 347	I 区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(5.2)	-	暗灰黄色 にぶい黄橙色 灰色	①内面調整 ②外面調整 ③形状等 ④洞部上位は外反して上がる。外面扁平な刻目突起。内頸接合部。胎土微細な白色粉粒を含む。	
I 348	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(5.0)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	①～④ナデ。⑤洞部上方に上上がり。上位で近くの字状に屈曲して縁部に向かう。外面屈曲部の上側に1条沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 349	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.0)	6.8	黒褐色 明黄褐色 黄灰色	①～④ナデ。⑤底部及び脚部ヘラミガキ。⑥平底。底部外縁は棱をなす。胎土微細ガラスを含む。	
I 350	〃	〃	土製品 不明	全長 4.6	全幅 4.1	全厚 0.7	オリーブ黑色 暗灰黄色 黄灰色	①～④ナデ。⑤円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。胎土微細ガラスを含む。	

I 区 遺物觀察表 石製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量(cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 43	I 区	SX7 1層	石鎌	1.8	1.6	0.5	やや粗雑な作りの石鎌。凸レンズ状に中央部に厚みが残る。刃部形成の押圧剥離はやや不整で、自然による剥離も利用したとみられる。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 96	*	火处4	石鎌	1.2	1.1	0.4	平基の石鎌。平面二等辺三角形を呈する。両面摩滅が顕著。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 97	*	火处4	被熱繩	6.8	4.5	1.0	扁平な東円錐。平面形状は不整な長方形ないし平行四辺形で、角部は丸みを帯びる。片面に赤色顔料が付着する。微細ガラスを含む。粗粒砂岩製。46g	
I 132	*	V層	石鎌	1.6	1.6	0.3	円基の石鎌。平面正三角形に近い形状を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 133	*	VI層	石鎌	1.6	1.3	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鎌。平面二等辺三角形に近い形状を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 134	*	*	楔形石器	2.1	2.0	0.3	青灰色ないし緑灰色の剥片を素材とする。両面軸方向を同じくする対向剥離により成形する。チャート製。重量 1g	
I 135	*	包含層	礫石器	13.5	6.7	4.1	円錐を利用する。片面は中央がやや凸となる。長軸の両端に敲打痕が残る。泥岩ないし頁岩製。重量 542g	
I 137	*	V層	自然繩	8.1	4.5	3.0	円錐。人為的な加工痕や擦痕等はみられない。緑色片岩製。重量 197g	
I 138	*	VI層	石斧	2.5	2.1	0.4	小型の磨製石斧。両側縁をやや削取りする。刃部は僅かに弧を描く。蛇紋岩製。重量 3g	
I 139	*	包含層	礫石器	6.3	3.3	2.1	椭円形の自然錐を利用する。一端に僅かな打痕が残る。片面及び長軸側縁に赤色顔料が斑に付着する。中粒砂岩製。重量 61g	
I 140	*	VI層	石鎌	1.6	1.1	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鎌。平面二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 141	*	*	石鎌	1.2	1.2	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鎌。平面正三角形に近い二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 142	*	*	石鎌	1.1	1.4	0.2	円錐の石鎌。平面形状は幅広の二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 143	*	V層	石鎌	1.9	1.5	0.4	平基の石鎌。平面二等辺三角形を呈する。基部・刃部とも直線的な形状。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 144	*	VI層	石鎌	1.7	1.3	0.3	薄い剥片を素材とする平基の石鎌。基部は僅かに弧状に張り出す。平面二等辺三角形を呈する。押圧剥離により刃縁を形成する。片面は押圧剥離の痕跡が少ない。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 194	*	V・VI層	石鎌	3.8	3.5	0.4	薄い剥片を素材とする。尖端部を両側からの打撃により作り出す。サスカイト製。重量 4g	
I 195	*	V層	剥片石器	8.2	6.2	2.1	円錐を素材とする叩石を剥片石器として転用したものとみられる。表面及び側縁に敲打痕が残る。末端片は板利となり、部分的に微細なぶれがあらわれる。微細ガラスを含む。中粒砂岩製。重量 93g	
I 196	*	包含層	磨石	11.8	11.4	5.7	不整形の円錐を素材とする。一面を磨面とする。磨面は僅かな彫らみを持つ平坦面をなす。粗粒砂岩製。重量 696g	
I 197	*	VI層	剥片石器	1.5	1.2	0.3	スクレイパー類の可能性のある剥片石器。片面がやや凸状を呈する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 198	*	*	石鎌	1.5	1.3	0.2	平基の石鎌。平面形は二等辺三角形を呈する。押圧剥離は刃縁周辺に留まる。サスカイト製。重量 1g 未満	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量(cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 199	I 区	VI層	石鎌	1.9	1.6	0.2	平基の石鎌。平面二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 200	〃	〃	石斧	2.0	2.6	1.2	磨製石斧の刃部とみられる。片刃をなすとみられる。蛇紋岩製。重量 4g	
I 246	〃	〃	不明	2.4	1.4	1.4	水晶片。色調はやや白濁する透明色。一端が尖る。尖頭部は先端からの剥離が観察される。重量 5g	
I 247	〃	〃	搔器	1.6	1.2	0.3	平面三角形を呈する。二辺が直線で、一辺がやや弧状に張り出す。三辺とも片側からの急角度による剥離を連続させる。サスカイト製。重量 1g 未満。	
I 248	〃	〃	石鎌	1.4	1.6	0.3	薄い剥片を素材とする凹基の石鎌。平面正三角形を呈する。刃部の二辺は僅かに弧状に張り出す。両面からの押圧剥離により刃部を形成する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 249	〃	〃	砥石	5.9	4.3	1.7	板状の礫を素材とする。三方向が削れにより欠損する。一面に擦痕が観察される。表面の一部が僅かに褐色に変色する。微細ガラスを含む。粗粒砂岩製。重量 58g	
I 352	〃	VI層	目的的剥片	1.6	1.5	0.3	石鎌の素材剥片の可能性有。剥離の打点は残存しない。両面の剥離軸は直交する。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 353	〃	包含層	石鎌	1.6	1.6	0.2	未製品の可能性有。押圧剥離により尖頭部を作り出す。片面側からの刃縁形成剥離ははばみられない。サスカイト製。重量 1g 未満	
I 354	〃	VI層	砾石器	6.3	3.5	1.3	円錐を利用する。弧状を呈し、一個面に擦痕が残る。粗粒砂岩製。重量 30g	
I 355	〃	〃	叩石・磨石	6.3	5.6	5.8	丸みを帯びた不整な四角錐状の円錐を利用する。ハンマー及び砥石として使用されたと考えられる。僅かな凸凹を持つ各面には擦痕が観察される。丸みを帯びた角部に敲打痕が集中する。材質は菱鉄鉱ノジュール。重量 314g	
I 356	〃	包含層	叩石	14.2	9.6	4.7	平面精円形の円錐を利用する。一端に敲打痕の可能性のある痕跡が残る。長軸の片側端に赤色顔料が僅かに付着する。片面の広範囲が褐色に変色する。中～粗粒砂岩製。重量 914g	
I 357	〃	VI層	石斧	8.9	6.4	3.1	磨製石斧。両面からの研磨により刃部を形成する。刃部は両側縁の一部まで鋭利に仕上げる。片面は敲打により部分的に剥離する。蛇紋岩製。重量 213g	
I 358	〃	包含層(SK直上)	石核	6.1	4.6	4.3	暗赤色の角礫を素材とする。二個面を敲打により打ち欠いたとみられる。チャート製。重量 131g	
I 359	〃	表採	剥片	8.5	4.6	2.1	厚みのある剥片。原礫面となる両面のやや軸をずらした位置に打点が明瞭に残る。サスカイト製。重量 78g	

I 区 遺物観察表 鉄製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 351	I 区	V層	不明	(3.8)	0.5	0.5	錐状の鉄製品。基部から先端と想定される方向に細くなる。両端は欠損する。断面形状は方形とみられる。重量27g	

写真図版



II区 ST1 上面 磁検出状態(北より)



II区 東壁(西より)

図版2



II区 南壁(北東より)



I区・II区 遺構完掘状態(西より)



II区 ST1 東西バンク 西半部 セクション(南より)



II区 ST1 東西バンク 東半部 セクション(南より)

図版4



II区 ST1 完掘状態(南東より)



II区 ST1 掘削作業風景(南西より)



II区 ST1 出土遺物

図版6



II区 ST1 / SK1 / SD2 / SX1 ~ 4 / P15 出土遺物

図版7



II区 P16/V層 出土遺物

図版8



II区 V層 出土遺物



II区 V層／V・VI層 出土遺物

図版10



II区 VI層 出土遺物

図版 11



II 区 VI 層 出土遺物

図版12

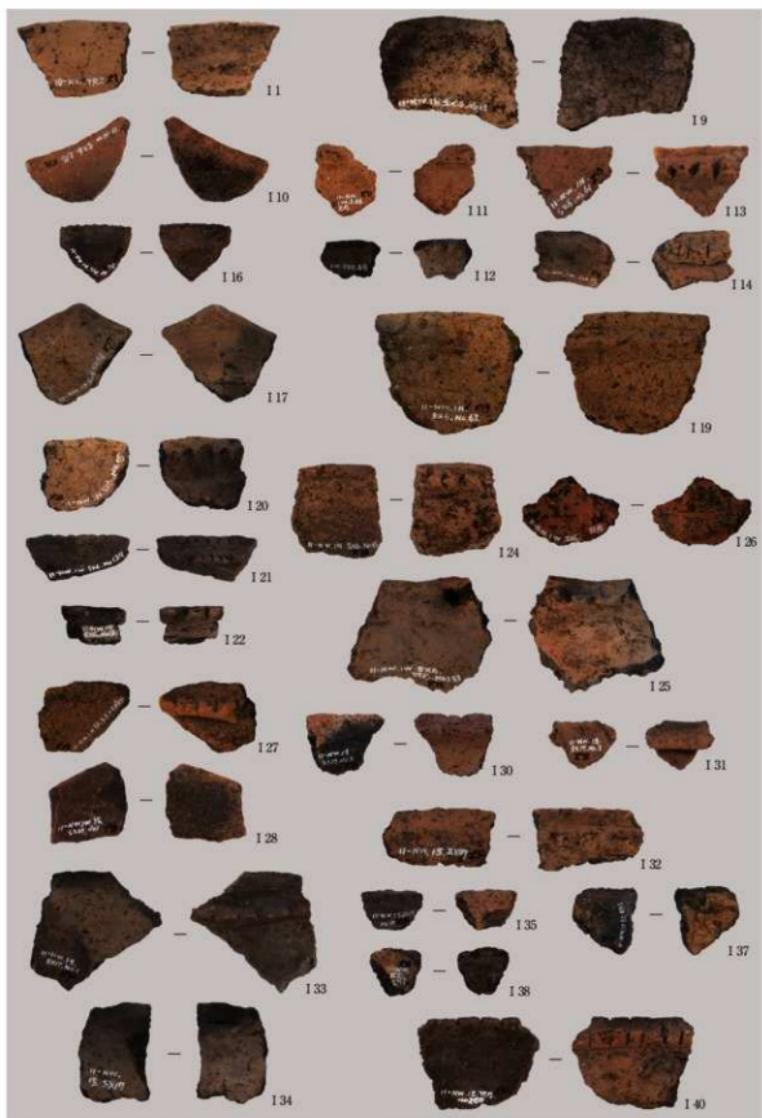


II区 VI層／包含層 出土遺物



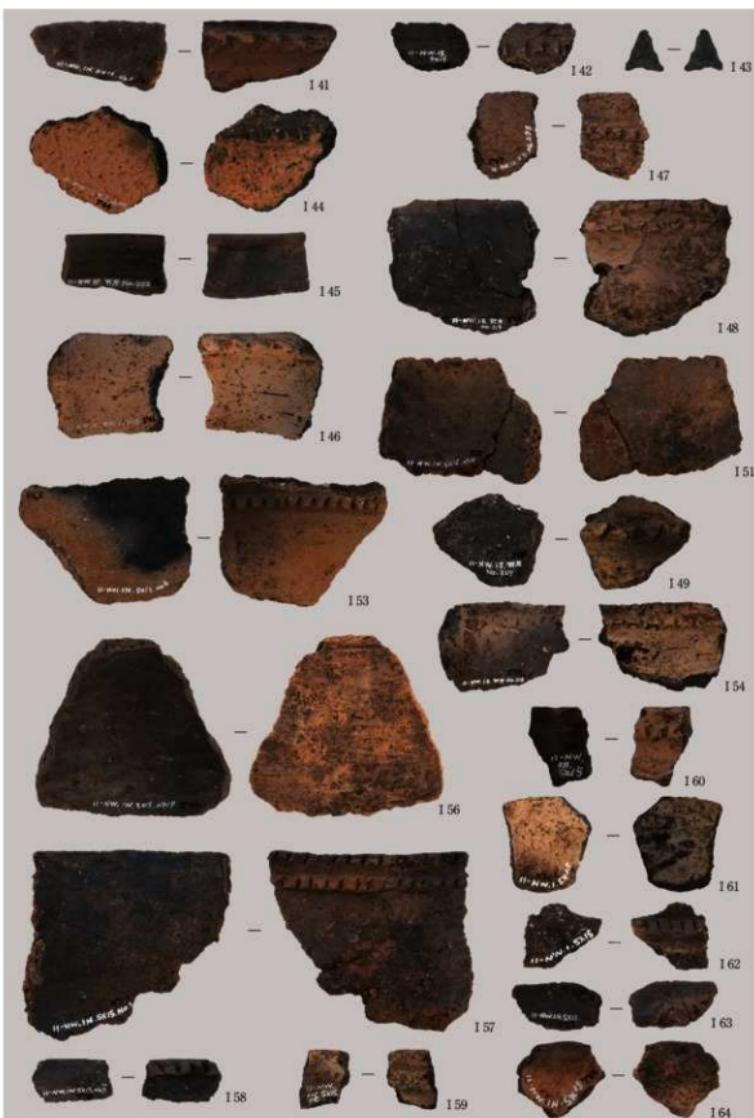
II 区 包含層／表採 出土遺物

図版14



TR2 II層／1区 SK1・2・4／SX4・5 出土遺物

図版 15



I 区 SX5～7 出土遺物

図版16



I区 SX7・9～11・13・15～17／P8・14・30・45・70・71／火廻4 出土遺物



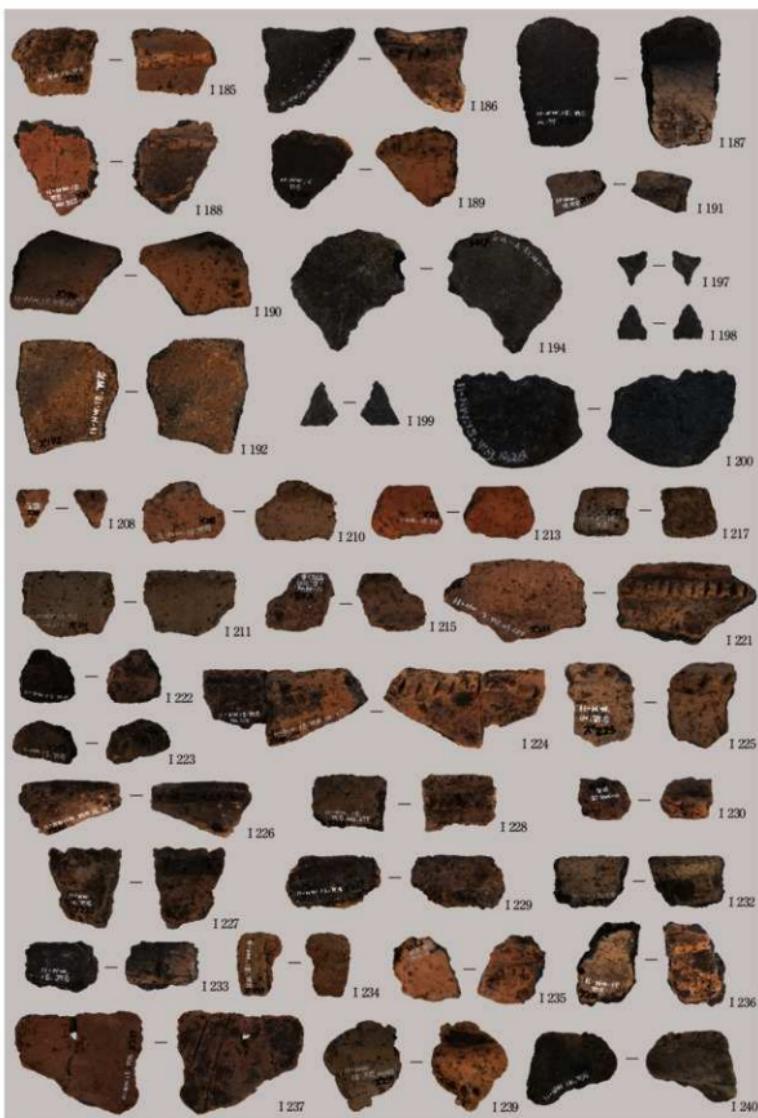
I 区 火处4／包含層／V層／V・VI層／VI層 出土遺物

図版18



I区 V・VI層／VI層 出土遺物

図版 19



I 区 VI層／包含層 出土遺物

図版20



I区 V・VI層／VI層／包含層 出土遺物

図版21



I 区 V・VI層／VI層 出土遺物

図版22



I区 V層/V・VI層/VI層/包含層 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にわがふちいせき							
書名	庭ヶ洞遺跡Ⅱ							
副書名	市道幅ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者名	松井尚行・遠部慎・早田勉							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1							
発行年月日	2024年2月29日							
所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ***	調査期間	調査面積	調査原因	
庭ヶ洞遺跡	〒781-5451 高知県 香南市香我美町 上分2974番地他	39211	180060	33° 33° 57°	133° 45° 45°	2011.7.8 ~ 2011.10.6	約300m ²	市道整備事業
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
庭ヶ洞遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古 代 中 世	堅穴建物跡 土坑 溝 路 性格不明遺構 ビット	1棟 1基 8条 4基 22個 (Ⅱ区検出分)	繩文土器 弥生土器 土師器 須恵器 瓦 土師質土器 貿易陶磁器 陶器 土製品 石製品 鉄製品	遺構及び包含層から 割目突帯文土器が出土 した。 孔列文土器3点、長竹 式土器に類似する北陸 系土器3点が出土した。 縄文時代晩期末から 弥生時代前期と考えら れる堅穴建物跡1棟を検 出した。		
要約	庭ヶ洞遺跡は、平成22年度に市道整備事業に伴い実施された試掘調査により発見された遺跡である。縄文時代晩期と考えられる割目突帯文を施す深鉢や磨研浅鉢のほか、石錐をはじめとする石製品、弥生時代前期の土器、古代～中世の遺物が出土した。本書所収の第Ⅱ調査地区においては、炭素14年代値が $2630 \pm 20BP$ 、 $2540 \pm 20BP$ を示す土器を出土する堅穴建物跡などの遺構を検出した。香南市の内陸部において縄文時代から弥生時代の移行期に形成された小集落の存在を示す重要な遺跡である。							

高知県香南市発掘調査報告書第22集

庭ヶ渕遺跡Ⅱ

市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書

2024年2月

発行 高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター

〒781-5453
高知県香南市香我美町山北1553-1
Tel. 0887-54-2296

印刷 川北印刷株式会社